

平成25年度 私費外国人留学生生活実態調査

概 要

平成26年7月

独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)

はじめに

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）は、文部科学省との緊密な連携の下に、学生支援を先導する中核機関として、奨学金貸与事業や留学生支援事業及び学生生活支援事業を総合的に実施し、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成するとともに、国際理解・交流の推進を図ることを目指しています。

平成25年5月現在、我が国で学んでいる外国人留学生数は、大学等の高等教育機関では、135,519人、日本語教育機関では、32,626人となっています（JASSO調べ）。

本機構では、平成26年1月に、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、専修学校（専門課程）、準備教育機関及び日本語教育機関に在籍する私費外国人留学生（7,000人）を対象に生活実態調査を実施しました。結果の概要は次のとおりです。

目 次

「平成25年度私費外国人留学生生活実態調査」結果の概要	1
I. 調査の目的と方法	3
1. 調査目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査方法	3
4. 調査対象人数	3
5. 調査実施時期	3
II. 調査結果の内容	4
1. アンケート回答状況	4
2. 日本留学前の状況	7
3. 在日・在学年数及び入学前の活動	9
4. 留学後の日本への印象等	11
5. 収入	14
6. 奨学金	16
7. 支出	19
8. アルバイト	22
9. 授業時間を除く学習・研究時間	28
10. 宿舎	34
11. 授業料等の保証人	41
12. 健康	43
13. 卒業後の進路希望等	46
参考資料	
平成25年度私費外国人留学生生活実態調査 アンケート用紙	55

「平成 25 年度私費外国人留学生生活実態調査」結果の概要

1. アンケート回答状況

私費外国人留学生の中から無作為抽出により、7,000 人に対してアンケートを送付し、6,085 人から有効回答を得た。回答率は 86.9%であった。

2. 日本留学前の状況

- (1) 日本を留学先として選んだ理由は、「日本社会に興味があり、日本で生活したかったため」(56.6%) が最も多い回答であった。
- (2) 留学するまでに特に苦労したことは、「日本語学習」(50.7%) が最も多い回答であった。
- (3) 留学情報の入手方法は、「親戚や友人に相談して」(41.7%) が最も多い回答であった。

3. 在日・在学年数及び入学前の活動

在日年数が 4 年未満の者は、4,430 人と全体の約 7 割 (72.8%) であった。また、来日後、現在在籍している大学等へ直接入学した者は、2,861 人で全体の 48.9%であった。なお、現在の大学等に直接入学しなかった者 (2,991 人) のうち、現在在籍する大学等の直前に日本語教育機関に在学していたと回答した者は、約 7 割の 2,069 人 (66.2%) であった。

4. 留学後の日本への印象等

- (1) 日本人に対する印象が「良くなった」とする回答は、50.4%であった。
- (2) 日本へ留学しての全体的な印象が「良かった」とする回答は、90.3%であった。
- (3) 留学後の苦労は、「物価が高い」(74.5%) が最も多い回答であった。

5. 収入

- (1) 収入の平均月額額は、140,000 円であった。
- (2) 収入は、主に「アルバイト」及び「仕送り」であった。
- (3) 居住地域別の収入の平均月額額は、関東地方が 154,000 円と全国で最も高く (東京のみでは 156,000 円)、四国地方が 110,000 円と最も低かった。

6. 奨学金

- (1) 全体の約 5 割 (52.5%) の者が何らかの奨学金を受けていた。
- (2) 在籍段階別の奨学金受給率は、高い順に「大学院博士課程・博士後期課程」、「大学院修士課程・博士前期課程」、「短期大学」、「学部正規課程」であった。
- (3) 学習奨励費を受けて良かったことは、「日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた」(85.7%) が最も多い回答であった。
- (4) 学習奨励費の給付に対する要望は、「給付期間を 1 年間から延ばしてほしい」(54.7%) が最も多かった。

7. 支出

- (1) 支出の平均月額額は、140,000 円であった。
- (2) 支出のうち「学習研究費」が最も多く、次いで、「住居費」、「食費」の順であった。
- (3) 支出が最も高いのは、民間のアパートやマンションに住む準備教育課程生であり、平均月額額は 163,000 円であった。最も低いのは、国立大学に通い大学の学生寮に住んでいる学部レベルの学生で、平均月額額は 86,000 円であった。

8. アルバイト

- (1) 全体の 7 割以上 (75.3%) が何らかのアルバイトに従事していた。
- (2) 職種は、軽労働の「飲食業」が 2,232 人で全体の半数近く (48.7%) であった。
- (3) 従事時間は、週平均「20 時間以上 25 時間未満」が 1,377 人 (30.1%) と最も多く、次いで、「15 時間以上 20 時間未満」が 1,053 人 (23.0%) であった。

9. 授業時間を除く学習・研究時間

- (1) 在籍段階別にみると、「大学院博士課程・博士後期課程」では、264人(60.8%)が週当たり「週35時間以上」勉強していると回答しているが、「大学院修士課程・博士前期課程」、「大学院レベルの研究生」を除いた在籍段階において、8割以上が、学習時間「週28時間未満」であり、その中でも特に「週7時間以上21時間未満」に集中していた。
- (2) 「薬学」分野の学生の7割(70.0%)、「医・歯学」の約7割(69.6%)は、「週28時間以上」を学習時間にあてている一方で、「日本語」の約9割(89.3%)、「社会科学」約8割(81.7%)、「人文科学」約8割(77.7%)、「教育」約7割(72.0%)、「家政」約7割(68.1%)、「工学」6割(60.1%)、「農学」約5割(55.2%)、「理学」約5割(54.5%)は「週28時間未満」が多い回答であった。

10. 宿舍

- (1) 住居の形態は、「民間アパート・マンション等」に居住する者が、4,584人(75.3%)と最も多かった。
- (2) 一人当たりの専有面積は、10㎡(約6畳)未満の者が全体の約5割(49.8%)であった。また、7割以上の者が、個別のキッチン、バス・シャワー、トイレ付きの部屋に居住していた。
- (3) 単身、同居別では、約5割(単身50.9%、同居46.9%)と同じであった。また、同居のうち「2人で生活(同居人1人)」は1,181人(41.4%)、「3人で生活(同居人2人)」は953人(33.4%)であった。同居人の種類は、「外国人留学生」が1,567人(54.9%)と最も多い回答であった。
- (4) 住居費の全国平均月額額は35,000円で、関東地方が41,000円と最も高かった。
- (5) 宿舍入居の際に保証人を求められたと回答した者は、約6割(59.3%)の3,606人となっていた。また、保証人は、「大学・学校(代表者)」が1,099人(30.5%)と最も多かった。

11. 授業料等の保証人

授業料等の保証人を「求められた」と回答した者は約6割(60.0%)の3,653人であった。また、保証人は、「親族」が2,494人(68.3%)と最も多かった。

12. 健康

- (1) 健康保険に加入している者は、全体の約9割(97.3%)の5,918人であった。
- (2) 健康保険加入者の中では、日本の国民健康保険に加入している者が5,715人(96.6%)であった。
- (3) 健康保険未加入者150人のうち、未加入理由は「保険料が高すぎる」と回答した者が58人(38.7%)で最も多かった。

13. 卒業後の進路希望等

- (1) 卒業後の予定は、「日本において就職する」ことを希望した者が3,957人(65.0%)で最も多く、次いで「日本において進学」が2,748人(45.2%)であった。
- (2) 「日本において就職希望」と回答した者の就職希望分野は、「海外業務」1,523人(38.5%)が最も多く、次いで、「貿易業務」1,296人(32.8%)、「翻訳・通訳」1,114人(28.2%)、「経営・管理業務」947人(23.9%)であった。
- (3) 就職活動時の要望は、「在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化」が2,082人(52.6%)で最も多く、次いで、「留学生を対象とした就職に関する情報の充実」が2,025人(51.2%)であった。

※調査結果の率(%)合計値について、四捨五入や集計値の違いによって、若干の誤差が生じておりますので、あらかじめご承知おき下さい。

I. 調査の目的と方法

1. 調査目的

この調査は、我が国で学ぶ私費外国人留学生の標準的な生活の状況を把握するとともに、経済的な実状等を明らかにすることにより、独立行政法人日本学生支援機構が実施する私費外国人留学生に対する各種の支援事業を改善、充実を図るための基礎資料として活用することを目的とした。

2. 調査対象

我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、専修学校（専門課程）、準備教育機関及び日本語教育機関（以下「大学等」という。）に在籍する私費外国人留学生を対象とし、国費外国人留学生、外国政府が派遣する政府派遣留学生及び在籍機関が1年未満の交換留学生・短期留学生は対象に含まないこととした。

3. 調査方法

全国の大学等の協力を得て、調査協力校に在籍する私費外国人留学生を無作為抽出し、所定のアンケート用紙及びアンケート回答用紙（無記名）を送付し、アンケート回答用紙を回収した。

なお、調査協力校の選定にあたっては、大学等の留学生在籍率及び地域分布等を考慮した。

4. 調査対象人数

7,000人（国立大学 63校 1,190人、公立大学 24校 150人、私立大学 217校 3,211人、短期大学 26校 75人、専修学校（専門課程） 112校 1,174人、準備教育課程 10校 70人、日本語教育機関 120校 1,130人）

5. 調査実施時期

平成 26 年 1 月

Ⅱ. 調査結果の内容

1. アンケート回答状況

私費外国人留学生 7,000 人にアンケートを送付し、有効回答を 6,085 人から得た（有効回答回収率 86.9%）。

回答者の性別の内訳（第 1-1 表）は、男性が 2,972 人（48.8%）、女性が 3,108 人（51.1%）であった。

出身国・地域別の回答者数（第 1-2 表）は、「中国」が最も多く 3,722 人（61.2%）、以下、「韓国」が 673 人（11.1%）、「ベトナム」が 362 人（5.9%）、「台湾」が 236 人（3.9%）、「ネパール」が 207 人（3.4%）と続いており、アジア出身者が全回答者数の 96.0%となっている。

回答者の在籍学校別の内訳（第 1-3 表）は、「国立大学」が 1,076 人（17.7%）、「公立大学」が 136 人（2.2%）、「私立大学」が 2,824 人（46.4%）、「短期大学」が 59 人（1.0%）、「専修学校（専門課程）」が 963 人（15.8%）、「準備教育課程」が 50 人（0.8%）、「日本語教育機関」が 977 人（16.1%）であった。

在籍段階別の回答者数（第 1-4 表）は、回答者の多い順に、「学部正規課程」が 2,299 人（37.8%）、「日本語教育機関」が 976 人（16.0%）、「専修学校（専門課程）」が 967 人（15.8%）、「大学院修士課程・博士前期課程」が 860 人（14.1%）、「大学院博士課程・博士後期課程」が 434 人（7.1%）、「専門職大学院課程」が 71 人（1.2%）、「学部レベルの研究生・聴講生」が 71 人（1.2%）、「大学院レベルの研究生」が 70 人（1.2%）、「短期大学」が 59 人（1.0%）、準備教育課程が 50 人（0.8%）と続いている。

専攻分野別の回答者数（第 1-5 表）は、同様に、「社会科学」が 1,816 人（29.8%）、「日本語」が 1,431 人（23.5%）、「工学」が 784 人（12.9%）、「人文科学」が 560 人（9.2%）と続いている。

第 1-1 表 回答者の性別 (Q1 参照)

区分	男性	女性	不明	計
人数 (人)	2,972	3,108	5	6,085
率 (%)	48.8	51.1	0.1	100.0

第 1-2 表 出身国・地域別の回答者数

(Q2 参照)

	国・地域	人数	%
アジア	中国	3,722	61.2
	韓国	673	11.1
	ベトナム	362	5.9
	台湾	236	3.9
	ネパール	207	3.4
	タイ	123	2.0
	ミャンマー	92	1.5
	インドネシア	92	1.5
	マレーシア	88	1.4
	モンゴル	87	1.4
	スリランカ	48	0.8
	バングラデシュ	37	0.6
	インド	26	0.4
	フィリピン	18	0.3
	カンボジア	10	0.2
	パキスタン	9	0.1
	シンガポール	7	0.1
	ラオス	3	0.0
	ブルネイ	1	0.0
	小計	5,841	96.0
中近東	イラン	7	0.1
	シリア	4	0.1
	トルコ	3	0.0
	アフガニスタン	3	0.0
	サウジアラビア	1	0.0
	イエメン	1	0.0
	小計	19	0.3
アフリカ	カメルーン	5	0.1
	エジプト	4	0.1
	タンザニア	3	0.0
	セネガル	3	0.0
	コンゴ民主共和国	2	0.0
	ガーナ	2	0.0
	コートジボワール	2	0.0
	スーダン	1	0.0
	チュニジア	1	0.0
	ケニア	1	0.0
	ナイジェリア	1	0.0
	モロッコ	1	0.0
	ベナン	1	0.0
	モーリシャス	1	0.0
	ルワンダ	1	0.0
	小計	29	0.5

	国・地域	人数	%
オセアニア	オーストラリア	6	0.1
	ニュージーランド	2	0.0
	小計	8	0.1
北米	米国	36	0.6
	カナダ	8	0.1
	小計	44	0.7
中南米	メキシコ	11	0.2
	ブラジル	5	0.1
	ペルー	4	0.1
	チリ	3	0.0
	コスタリカ	1	0.0
	コロンビア	1	0.0
	ベネズエラ	1	0.0
	小計	26	0.4
ヨーロッパ	ロシア	22	0.4
	フランス	19	0.3
	イタリア	13	0.2
	ドイツ	12	0.2
	スウェーデン	11	0.2
	スペイン	6	0.1
	カザフスタン	6	0.1
	フィンランド	4	0.1
	英国	3	0.0
	ハンガリー	3	0.0
	ウズベキスタン	3	0.0
	ルクセンブルク	2	0.0
	スイス	2	0.0
	スロバキア	2	0.0
	キルギス	2	0.0
	アイスランド	1	0.0
	オランダ	1	0.0
	ポーランド	1	0.0
	ラトビア	1	0.0
ウクライナ	1	0.0	
アゼルバイジャン	1	0.0	
トルクメニスタン	1	0.0	
小計	117	1.9	
その他	不明	1	0.0
	小計	1	0.0
合計		6,085	100.0

第 1-3 表 回答者の在籍学校別内訳

(Q11・12 参照)

	大学				短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	高等教育 機関計	日本語 教育機関	計
	国立	公立	私立	大学計						
調査対象人数	1,190	150	3,211	4,551	75	1,174	70	5,870	1,130	7,000
回答人数	1,076	136	2,824	4,036	59	963	50	5,108	977	6,085
率 (%)	17.7	2.2	46.4	66.3	1.0	15.8	0.8	83.9	16.1	100.0
回収率 (%)	90.4	90.7	87.9	88.7	78.7	82.0	71.4	87.0	86.5	86.9

(注) 人数は、第 1-4 表の在籍段階別のうち不明を除いた有効回答人数を示す。

(注) 回収率は、在籍学校別の有効回答回収率を示す。

第 1-4 表 在籍段階別の回答者数

(Q12 参照)

区分	大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職 大学院 課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	日本語 教育機関	その他	計
人数 (人)	434	860	71	70	2,299	71	59	963	50	976	232	6,085
率 (%)	7.1	14.1	1.2	1.2	37.8	1.2	1.0	15.8	0.8	16.0	3.8	100.0

第 1-5 表 専攻分野別の回答者数

(Q13 参照)

区分	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	日本語	その他	計
人数 (人)	560	1,816	158	784	114	82	20	113	132	1,431	875	6,085
率 (%)	9.2	29.8	2.6	12.9	1.9	1.3	0.3	1.9	2.2	23.5	14.4	100.0

(注) その他は、別科、専攻科に在籍するものを示す。

2. 日本留学前の状況

留学の目的（第 2-1 表）は、「学位を取得する」が最も多く、3,358 人（55.2%）、「就職に必要な技能や知識を身に付ける」が 2,430 人（39.9%）、「日本で働く、もしくは日本企業に就職する」が 2,312 人（38.0%）、「日本語の能力を高める」が 2,150（35.3%）、「国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作りたい」が 1,810 人（29.7%）、「国際的な考え方を身に付けたい」が 1,766 人（29.0%）となっている。

第 2-1 表 留学の目的（複数回答設問）

（Q3・11・12 参照）

区分	学位を取得する	教養を身に付ける	就職に必要な技能や知識を身に付ける	日本で働く、もしくは日本企業に就職する	国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作りたい	国際的な考え方を身に付けたい	良い環境で研究を行う	日本語の能力を高めたい	他文化に接する	その他	不明
人数（人）	3,358	1,425	2,430	2,312	1,810	1,766	879	2,150	798	61	3
率（%）	55.2	23.4	39.9	38.0	29.7	29.0	14.4	35.3	13.1	1.0	0.0
平成 23 年率（%）	59.1	26.9	54.4	-	44.8	36.5	15.1	26.5	17.8	1.4	0.1
平成 21 年率（%）	54.6	17.5	54.0	-	47.4	33.0	12.4	41.5	21.1	1.0	0.1

日本を留学先として選んだ理由（第 2-2 表）としては、「日本社会に興味があり、日本で生活したかったため」が 3,443 人（56.6%）で最も多く、次いで、「日本語・日本文化を勉強したかったため」が 2,744 人（45.1%）、「日本の大学等の教育、研究が魅力的と思ったため」が 2,004 人（32.9%）と続く。

第 2-2 表 日本を留学先として選んだ理由（複数回答設問）

（Q4・11・12 参照）

区分	日本社会に興味があり、日本で生活したかったため	日本の大学等の教育、研究が魅力的と思ったため	地理的に近いため	興味ある専門分野があったため	異文化に接したかったため	日本語・日本文化を勉強したかったため	日本と関連のある職業に就きたかったため	奨学金を得られたため
人数（人）	3,443	2,004	1,260	1,333	1,315	2,744	1,345	263
率（%）	56.6	32.9	20.7	21.9	21.6	45.1	22.1	4.3
平成 23 年率（%）	56.6	33.9	21.0	23.1	24.1	49.6	28.5	3.2
平成 21 年率（%）	53.1	33.2	21.1	25.1	22.3	46.4	29.3	4.0

区分	友人、知人、家族等に勧められたため	大学間交流等をきっかけとして	他の国も考えていたが、学力や費用等の条件が一番合ったため	その他	不明
人数（人）	1,316	369	769	86	3
率（%）	21.6	6.1	12.6	1.4	0.0
平成 23 年率（%）	23.4	4.5	-	1.9	0.0
平成 21 年率（%）	26.4	4.7	-	1.0	0.1

留学するにあたり不安に感じていたこと（第2-3表）は、「自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるかどうか」が最も多く、2,908人（47.8%）、次いで「経済的な困難に直面しないかどうか」が2,729人（44.8%）、「周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるかどうか」が2,709人（44.5%）と続く。

第2-3表 留学するにあたり不安に感じていたこと（複数回答設問）（Q5・11・12参照）

区分	日本の天候や食べ物、習慣に適應できるかどうか	自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるかどうか	周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるかどうか	適切な宿舎を確保できるかどうか	病気にかかったり自然災害に遭ったりしないかどうか	孤独に感じたりホームシックになったりしないかどうか	経済的な困難に直面しないかどうか	特に不安はなかった	その他	不明
人数（人）	1,160	2,908	2,709	498	1,507	1,329	2,729	912	116	11
率（%）	19.1	47.8	44.5	8.2	24.8	21.8	44.8	15.0	1.9	0.2

留学するまでに特に苦労したこと（第2-4表）は、「日本語学習」が最も多く、3,083人（50.7%）、次いで、「留学資金準備」が2,658人（43.7%）、「情報の収集」が2,442人（40.1%）となっている。

第2-4表 留学するまでに特に苦労したこと（複数回答設問）（Q6・11・12参照）

区分	情報の収集	日本語学習	留学先学校との事前連絡	留学ビザ取得	留学資金準備	入学試験	その他	不明
人数（人）	2,442	3,083	1,330	1,520	2,658	1,466	233	34
率（%）	40.1	50.7	21.9	25.0	43.7	24.1	3.8	0.6
平成23年率（%）	44.4	49.8	26.0	28.0	49.5	22.0	4.4	0.4
平成21年率（%）	38.3	54.6	23.7	34.5	47.5	24.0	2.7	0.6

留学情報の入手方法（第2-5表）としては、「親戚や友人に相談して」が最も多く、2,539人（41.7%）、次いで、「インターネットを利用して学校や日本学生支援機構（JASSO）のHPを検索して」が2,247人（36.9%）、「母国の学校や教員に相談して」が1,802人（29.6%）と続いている。

第2-5表 留学情報の入手方法（複数回答設問）（Q7・11・12参照）

区分	日本留学フェア教育展等に参加して	入学を希望する学校に直接問い合わせして	在外日本大使館等の在外公館に問い合わせして	母国の政府教育機関に問い合わせして	日本学生支援機構（JASSO）に問い合わせして	インターネットを利用して学校や日本学生支援機構（JASSO）のHPを検索して	その他の民間団体に問い合わせして
人数（人）	1,262	1,466	219	686	197	2,247	1,053
率（%）	20.7	24.1	3.6	11.3	3.2	36.9	17.3
平成23年率（%）	27.8	33.2	6.1	18.0	4.9	32.3	15.1
平成21年率（%）	19.3	23.5	4.5	11.8	3.2	37.3	16.6

区分	日本の出版物を購入して	母国の学校や教員に相談して	親戚や友人に相談して	その他	不明
人数（人）	295	1,802	2,539	230	14
率（%）	4.8	29.6	41.7	3.8	0.2
平成23年率（%）	3.3	21.8	37.8	3.1	0.1
平成21年率（%）	5.0	30.4	47.0	2.6	0.4

3. 在日・在学年数及び入学前の活動

在日年数（第3-1表）は、「1年以上2年未満」の1,473人（24.2%）が最も多く、次いで、「3年以上4年未満」が1,189人（19.5%）、「2年以上3年未満」が1,051人（17.3%）と続き、在日年数が「1年以上4年未満」の者が3,713人（61.0%）で全体の約6割である。

第3-1表 在日年数

（Q8 参照）

区分	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～6年未満	6年以上	不明	計
人数（人）	717	1,473	1,051	1,189	807	455	386	7	6,085
率（%）	11.8	24.2	17.3	19.5	13.3	7.5	6.3	0.1	100.0
平成23年率（%）	13.0	28.0	18.3	17.4	9.3	6.6	6.9	0.5	100.0
平成21年率（%）	9.1	20.9	20.7	20.2	11.3	7.4	10.2	0.3	100.0

在籍段階別の在日年数（第3-2表）を見ると、「大学院博士課程・博士後期課程」の約6割（59.5%）が在日3年以上であり、課程の段階があがるにつれて在日年数が増えている。

第3-2表 在籍段階別の在日年数

（Q8・12 参照）

区分	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～6年未満	6年以上	不明	計	
大学院博士課程・博士後期課程	人数（人）	47	54	75	58	72	47	81	0	434
	率（%）	10.8	12.4	17.3	13.4	16.6	10.8	18.7	0.0	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数（人）	105	139	194	166	80	45	131	0	860
	率（%）	12.2	16.2	22.6	19.3	9.3	5.2	15.2	0.0	100.0
専門職大学院課程	人数（人）	13	11	15	13	10	4	4	1	71
	率（%）	18.3	15.5	21.1	18.3	14.1	5.6	5.6	1.4	100.0
大学院レベルの研究生	人数（人）	12	14	15	16	3	5	5	0	70
	率（%）	17.1	20.0	21.4	22.9	4.3	7.1	7.1	0.0	100.0
学部正規課程	人数（人）	154	329	431	545	477	258	103	2	2,299
	率（%）	6.7	14.3	18.7	23.7	20.7	11.2	4.5	0.1	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数（人）	11	10	11	16	13	8	2	0	71
	率（%）	15.5	14.1	15.5	22.5	18.3	11.3	2.8	0.0	100.0
短期大学	人数（人）	5	15	11	20	4	1	3	0	59
	率（%）	8.5	25.4	18.6	33.9	6.8	1.7	5.1	0.0	100.0
専修学校（専門課程）	人数（人）	64	167	236	305	104	54	32	1	963
	率（%）	6.6	17.3	24.5	31.7	10.8	5.6	3.3	0.1	100.0
準備教育課程	人数（人）	21	28	0	0	1	0	0	0	50
	率（%）	42.0	56.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	100.0
日本語教育機関	人数（人）	255	669	30	4	7	1	7	3	976
	率（%）	26.1	68.5	3.1	0.4	0.7	0.1	0.7	0.3	100.0
その他	人数（人）	30	37	33	46	36	32	18	0	232
	率（%）	12.9	15.9	14.2	19.8	15.5	13.8	7.8	0.0	100.0
合計	人数（人）	717	1,473	1,051	1,189	807	455	386	7	6,085
	率（%）	11.8	24.2	17.3	19.5	13.3	7.5	6.3	0.1	100.0

表3-3の在籍段階における「その他」を除いた5,853人のうち、来日後、「現在通っている大学・学校にすぐ入学した」と回答した者は、2,861人（48.9%）、「現在在籍している以外の学校に通ったり、就労等の経験がある」と回答した者は、2,991人（51.1%）である。

以下の表（第3-3表と第3-4表）は、在籍段階別の在籍学生の経路と直接入学以外の者の在籍段階別の直近状況をまとめたものである。

第 3-3 表 在籍段階別の在籍学生の経路

(Q9・12 参照)

区分		大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職 大学院 課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期 大学	専修学校 (専門課程)	準備教 育課程	日本語 教育機 関	その他	計
直接入学 の者	人数(人)	270	341	40	37	915	35	26	365	39	793	99	2,960
	率(%)	62.2	39.7	56.3	52.9	39.8	49.3	44.1	37.9	78.0	81.3	42.7	48.6
	平成23年率(%)	50.2	38.2	53.4	67.1	38.5	43.7	67.7	42.1	—	84.1	—	49.4
	平成21年率(%)	46.4	34.3	42.6	39.7	33.5	44.4	62.2	39.6	—	—	—	37.1
直接入学 以外の者	人数(人)	164	519	31	33	1,384	36	33	598	11	182	133	3,124
	率(%)	37.8	60.3	43.7	47.1	60.2	50.7	55.9	62.1	22.0	18.6	57.3	51.3
	平成23年率(%)	49.8	61.8	44.8	32.9	61.3	56.3	32.3	57.6	—	15.7	—	50.4
	平成21年率(%)	53.6	65.3	57.4	58.6	66.3	53.3	36.7	59.4	—	—	—	62.4
不明	人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平成23年率(%)	0.0	0.0	1.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	—	0.3	—	0.2
	平成21年率(%)	0.0	0.3	0.0	1.7	0.2	2.2	1.0	1.0	—	—	—	0.5
合計	人数(人)	434	860	71	70	2,299	71	59	963	50	976	232	6,085
	率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) 直接入学の者とは、現在在籍している大学・学校にすぐ入学した者を示す。

また、直接入学以外の者とは、現在在籍している以外の大学に通う他、就労等の経験がある者を示す。

第 3-4 表 直接入学以外の者の在籍段階別の直近状況

(Q10・12 参照)

区分		大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職 大学院 課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期 大学	専修学校 (専門課程)	準備教 育課程	日本語 教育機 関	その他	計
日本語 教育機関	人数(人)	58	262	17	19	1,014	23	20	442	6	121	87	2,069
	率(%)	35.4	50.5	54.8	57.6	73.3	63.9	60.6	73.9	54.5	66.5	65.4	66.2
準備教育課程	人数(人)	9	19	0	2	23	1	0	10	1	1	2	68
	率(%)	5.5	3.7	0.0	6.1	1.7	2.8	0.0	1.7	9.1	0.5	1.5	2.2
留学生別科	人数(人)	12	45	3	0	119	4	5	19	0	4	12	223
	率(%)	7.3	8.7	9.7	0.0	8.6	11.1	15.2	3.2	0.0	2.2	9.0	7.1
専修学校 (専門課程)	人数(人)	2	13	3	1	76	2	1	64	0	4	14	180
	率(%)	1.2	2.5	9.7	3.0	5.5	5.6	3.0	10.7	0.0	2.2	10.5	5.8
高等専門学校	人数(人)	0	13	1	1	28	1	0	9	0	1	4	58
	率(%)	0.0	2.5	3.2	3.0	2.0	2.8	0.0	1.5	0.0	0.5	3.0	1.9
短期大学	人数(人)	0	6	1	1	29	2	4	3	0	1	1	48
	率(%)	0.0	1.2	3.2	3.0	2.1	5.6	12.1	0.5	0.0	0.5	0.8	1.5
大学の学部	人数(人)	17	69	4	2	33	1	1	16	0	9	3	155
	率(%)	10.4	13.3	12.9	6.1	2.4	2.8	3.0	2.7	0.0	4.9	2.3	5.0
大学院	人数(人)	36	49	0	6	2	0	0	2	0	1	0	96
	率(%)	22.0	9.4	0.0	18.2	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.5	0.0	3.1
働いていた	人数(人)	10	12	1	0	11	0	2	17	1	18	4	76
	率(%)	6.1	2.3	3.2	0.0	0.8	0.0	6.1	2.8	9.1	9.9	3.0	2.4
その他	人数(人)	19	28	0	1	41	1	0	10	1	14	4	119
	率(%)	11.6	5.4	0.0	3.0	3.0	2.8	0.0	1.7	9.1	7.7	3.0	3.8
不明	人数(人)	1	3	1	0	8	1	0	6	2	8	2	32
	率(%)	0.6	0.6	3.2	0.0	0.6	2.8	0.0	1.0	18.2	4.4	1.5	1.0
合計	人数(人)	164	519	31	33	1,384	36	33	598	11	182	133	3,124
	率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) 回答者数は、第 3-3 表の直接入学以外の者の数 (3,124 人)

4. 留学後の日本への印象等

留学後の日本人に対する印象（第4-1表）は、「良くなった」と回答した者が3,068人（50.4%）で約5割となっており、「悪くなった」と回答した者は439人（7.2%）である。

第4-1表 留学後の日本人に対する印象 (Q19 参照)

区分	留学前は悪かったが留学後に良くなった	留学前から良かったが留学後にさらに良くなった	留学前は良かったが留学後に悪くなった	留学前から悪かったが留学後にさらに悪くなった	留学前から良かったが留学後特に変化は無い	留学前から悪かったが留学後に特に変化は無い	不明	合計
人数(人)	819	2,249	417	22	2,511	14	53	6,085
率(%)	13.5	37.0	6.9	0.4	41.3	0.2	0.9	100.0

日本へ留学しての全体的な印象（第4-2表）は、留学して「良かった」と回答した者が5,492人（90.3%）で9割になっており、「悪かった」と回答した者は20人（0.3%）である。

第4-2表 日本へ留学しての全体的な印象 (Q20 参照)

区分	良かった	悪かった	どちらともいえない	不明	計
人数(人)	5,492	20	560	13	6,085
率(%)	90.3	0.3	9.2	0.2	100.0
平成23年率(%)	88.0	0.9	10.6	0.5	100.0
平成21年率(%)	85.1	1.4	13.0	0.5	100.0

留学して良かったこと（第4-3表）は、「国際的な考え方、教養を身につけることができたこと」が3,714人（61.0%）、次いで「日本語が習得できたこと」が3,576人（58.8%）である。

第4-3表 留学して良かったこと (複数回答設問) (Q21 参照)

区分	質の高い教育を受けられたこと	日本語が習得できたこと	日本人の友人ができたこと	国際的な人脈ができたこと	国際的な考え方、教養を身につけることができたこと	その他	不明
人数(人)	2,712	3,576	2,154	1,582	3,714	163	1
率(%)	44.6	58.8	35.4	26.0	61.0	2.7	0.0

(注) 回答者は、第4-2表で良かったと回答した者

在籍校の良い点と悪い点（第4-4表）は、良い点として「学生のサポート体制」が2,531人（41.6%）、「学修環境」が1,968人（32.3%）と続く。一方、悪い点として、「その他」「不明」を除き、「課外活動」が921人（15.1%）、「福利厚生」が807人（13.3%）である。

第4-4表 在籍校の良い点と悪い点 (複数回答設問) (Q18 参照)

区分		学生のサポート体制	学修環境	研究内容	福利厚生	課外活動	その他	不明
良い点	人数(人)	2,531	1,968	668	148	294	217	259
	率(%)	41.6	32.3	11.0	2.4	4.8	3.6	4.3
悪い点	人数(人)	478	491	302	807	921	1,068	2,018
	率(%)	7.9	8.1	5.0	13.3	15.1	17.6	33.2

在日年数別の日本へ留学しての全体的な印象（第4-5表）を見ると、「良かった」が全項目で9割以上であり（在日年数不明者の項目を除く）、在日年数が「6年以上」（93.5%）が最も高い回答率となっている。在日年数が多くなるほど、印象が良くなる傾向がある。

第4-5表 在日年数別の日本へ留学しての全体的な印象 (Q8・20 参照)

区分			良かった	悪かった	どちらともいえない	不明	計
在日年数	1年未満	人数(人)	627	3	86	1	717
		率(%)	87.4	0.4	12.0	0.1	100.0
	1年～2年未満	人数(人)	1,332	2	136	3	1,473
		率(%)	90.4	0.1	9.2	0.2	100.0
	2年～3年未満	人数(人)	966	2	81	2	1,051
		率(%)	91.9	0.2	7.7	0.2	100.0
	3年～4年未満	人数(人)	1,063	7	117	2	1,189
		率(%)	89.4	0.6	9.8	0.2	100.0
	4年～5年未満	人数(人)	725	2	76	4	807
		率(%)	89.8	0.2	9.4	0.5	100.0
	5年～6年未満	人数(人)	411	4	39	1	455
		率(%)	90.3	0.9	8.6	0.2	100.0
	6年以上	人数(人)	361	0	25	0	386
		率(%)	93.5	0.0	6.5	0.0	100.0
不明	人数(人)	7	0	0	0	7	
	率(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
合計	人数(人)	5,492	20	560	13	6,085	
	率(%)	90.3	0.3	9.2	0.2	100.0	

留学後の苦勞（第4-6表）としては、「物価が高い」と回答した者が4,534人（74.5%）で約7割となっており、次いで、「日本語の習得」が1,863人（30.6%）、「日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い」が1,689人（27.8%）となっている。

第4-6表 留学後の苦勞（複数回答設問） (Q22 参照)

区分	物価が高い	日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い	宿舎等を探すこと	宿舎等におけるルール（ゴミ出し等）を守ること	日本語の習得	英語の習得	学校内で日本人学生と交流できないこと
人数(人)	4,534	1,689	1,312	612	1,863	1,052	1,252
率(%)	74.5	27.8	21.6	10.1	30.6	17.3	20.6
平成23年率(%)	80.8	28.3	23.6	7.8	33.1	13.3	22.4
平成21年率(%)	80.0	28.7	25.0	6.3	36.2	14.7	24.1

区分	学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと	学校の授業についていくこと	その他	不明
人数(人)	383	931	281	41
率(%)	6.3	15.3	4.6	0.7
平成23年率(%)	5.1	13.5	6.5	0.7
平成21年率(%)	6.5	16.3	4.5	0.6

留学後の苦勞で克服できなかったこと（第 4-7 表）は、「物価が高い」と回答した者が 2,788 人（45.8%）となっており、次いで、「英語の習得」が 1,093 人（18.0%）、「学校内で日本人学生と交流できないこと」が 876 人（14.4%）となっている。

第 4-7 表 留学後の苦勞で克服できなかったこと（複数回答設問）（Q23 参照）

区分	物価が高い	日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い	宿舎等を探すこと	宿舎等におけるルール（ゴミ出し等）を守ること	日本語の習得	英語の習得	学校内で日本人学生と交流できないこと
人数（人）	2,788	786	533	241	691	1,093	876
率（%）	45.8	12.9	8.8	4.0	11.4	18.0	14.4

区分	学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと	学校の授業についていくこと	その他	不明
人数（人）	294	406	553	586
率（%）	4.8	6.7	9.1	9.6

5. 収入

全体の平均月収入額は、140,000 円である。在籍段階別の平均月収入額（第 5-2 表）を比較すると、「専修学校（専門課程）」が 157,000 円で最も高く、以下、「準備教育課程」が 154,000 円、「日本語教育機関」が 144,000 円、「短期大学」が 143,000 円、「専門職大学院課程」が 139,000 円、「学部正規課程」が 138,000 円、「大学院レベルの研究生」が 136,000 円、「大学院博士課程・博士後期課程」が 135,000 円、「大学院修士課程・博士前期課程」が 130,000 円、「学部レベルの研究生・聴講生」が 127,000 円と続いている。

第 5-1 表 収入・支出同額者の在学段階別内訳数 (Q24・26 参照)

区分	大学院博士課程 博士後期課程	大学院修士課程 博士前期課程	専門職大学院課程	大学院レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育課程	日本語 教育機関	その他	不明	計
人数 (人)	379	761	49	54	1,969	48	38	719	43	704	159	—	4,923

(注) 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人)

第 5-2 表 在籍段階別の平均月収入額 (全体と在籍段階別) (Q12・24 参照)

区分	大学院博士課程 博士後期課程	大学院修士課程 博士前期課程	専門職大学院課程	大学院レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育課程	日本語 教育機関	その他	全体
平均月額 (千円)	135	130	139	136	138	127	143	157	154	144	137	140
平成 23 年 (千円)	137	126	141	122	140	128	124	151		137		138
平成 21 年 (千円)	136	127	153	113	136	123	151	149		—		138

(注) 平均月額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人) で、各項目の平均

大学国公私別の平均月収入額（第 5-3 表）を見ると、全体の平均収入額が 136,000 円であり、私立大学が 148,000 円、公立大学が 114,000 円、国立大学が 111,000 円である。

第 5-3 表 大学国公私別の平均月収入額 (Q11・12・24 参照)

区分	大学			全体
	国立	公立	私立	
平均月額 (千円)	111	114	148	136

(注) 1. 短期大学を除く。

2. 平均月額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人) で、各項目の平均

項目別平均月収入額（第 5-4 表）については、高等教育機関においては、回答の多い順に、「アルバイト」が 3,254 人（66.1%）で 64,000 円、「仕送り」が 2,972 人（60.4%）で 71,000 円、「奨学金」が 2,427 人（49.3%）で 59,000 円と続く。日本語教育機関においては、回答の多い順に「仕送り」が 569 人（11.6%）で 84,000 円、「アルバイト」が 520 人（10.6%）で 74,000 円、「奨学金」が 160 人（3.3%）で 50,000 円と続いている。

第 5-4 表 項目別平均月収入額

（Q11・12・24 参照）

区分		仕送り	アルバイト	奨学金	知人の援助	配偶者の収入	その他
高等教育機関	人数（人）	2,972	3,254	2,427	122	131	239
	率（%）	60.4	66.1	49.3	2.5	2.7	4.9
	平均月額（千円）	71	64	59	47	90	40
日本語教育機関	人数（人）	569	520	160	3.3	3	42
	率（%）	11.6	10.6	3.3	0.7	0.1	0.9
	平均月額（千円）	84	74	50	53	93	67

- （注） 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者（4,923 人）
 2. 率は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

居住地域別平均月収入額（第 5-5 表）は、関東地方が 154,000 円と全国で最も高く、四国地方が 110,000 円と最も低い。なお、東京のみでは、156,000 円となっている。

第 5-5 表 居住地域別平均月収入額

（Q11・12・24・29 参照）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
高等教育機関	122	113	155	126	139	123	110	122	157	140
日本語教育機関	111	151	150	126	138	135	0	123	153	144
全体	121	115	154	126	138	124	110	122	156	140

- （注） 平均月額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者（4,923 人）で、各項目の平均

第 5-6 表 居住地域別の項目別収入内訳（単位：千円）

（Q24・29 参照）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
仕送り	44	29	63	35	52	41	29	41	67	53
アルバイト	32	33	56	51	45	44	30	43	56	50
奨学金	38	42	26	30	31	35	38	28	25	29
知人の援助	1	1	2	2	2	2	0	1	2	2
配偶者の収入	1	6	2	4	2	2	8	3	1	2
その他	3	2	3	3	2	1	4	2	3	2

6. 奨学金

奨学金の受給者は 2,587 人で、全体（Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者）の約半数となっている。奨学金の受給内容内訳（第 6-1 表）を回答の多い順に見ると、高等教育機関では、「学習奨励費」が 1,622 人（66.8%）で平均月額が 52,000 円、「民間団体の奨学金」が 342 人（14.1%）で 85,000 円、「大学・学校からの奨学金」が 340 人（14.0%）で 43,000 円と続く。日本語教育機関では、「学習奨励費」が 130 人（81.3%）で 47,000 円、「その他の奨学金」が 10 人（6.3%）で 58,000 円、「大学・学校からの奨学金」と「民間団体の奨学金」が 9 名（5.6%）ずつでそれぞれ 26,000 円と 51,000 円と続く。

第 6-1 表 奨学金の受給内容内訳 (Q11・12・24 参照)

区分		学習奨励費	大学・学校からの奨学金	地方自治体 (都道府県市区町村) による援助金	民間団体の 奨学金	海外の団体 による奨学金 (日本以外の団体)	その他の 奨学金
高等教育機関	人数(人)	1,622	340	102	342	34	99
	率(%)	66.8	14.0	4.2	14.1	1.4	4.1
	平均月額(千円)	52	43	43	85	103	69
日本語教育機関	人数(人)	130	9	1	9	4	10
	率(%)	81.3	5.6	0.6	5.6	2.5	6.3
	平均月額(千円)	47	26	48	51	145	58

- (注) 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人)
 2. 率は、第 5-4 表で奨学金を記入した者 (2,587 人) を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

在籍学校別奨学金受給者（第 6-3 表）を見ると、「国立大学」が 599 人（60.0%）で、平均が 73,000 円と最も高く、最も低い金額は、「短期大学」で 24 人（63.2%）46,000 円となっている。

第 6-2 表 収入・支出同額者の在籍学校別 (国公私別) (Q11・12・24 参照)

区分	国立	公立	私立	大学計
人数(人)	999	119	2,301	3,419
率(%)	29.2	3.5	67.3	100.0

- (注) 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人) で各項目の件数

第 6-3 表 在籍学校別奨学金受給者（年度別比較表）

(Q11・12・24 参照)

区分	大学				短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育課程	高等教育機関計
	国立	公立	私立	大学計				
人数 (人)	599	85	1,398	2,082	24	299	22	2,427
率 (%)	60.0	71.4	60.8	60.9	63.2	41.6	51.2	57.5
平成 23 年率 (%)	63.9	73.2	59.8	61.4	48.0	46.0	—	—
平成 21 年率 (%)	76.5	76.7	66.6	69.8	64.7	46.3	—	—
平均月額 (千円)	73	66	55	61	46	47	47	59
平成 23 年 (千円)	75	68	54	61	54	49	—	—
平成 21 年 (千円)	72	66	55	61	47	48	—	—

区分	日本語 教育機関	不明	奨学金 受給者計	奨学金 非受給者	計
人数 (人)	160	—	2,587	2,336	4,923
率 (%)	22.7	—	52.5	47.5	100.0
平成 23 年率 (%)	21.0	0.0	51.4	48.6	100.0
平成 21 年率 (%)	—	0.0	63.8	36.2	100.0
平均月額 (千円)	50	—	58	—	—
平成 23 年 (千円)	51	0	58	—	—
平成 21 年 (千円)	—	0	60	—	—

- (注) 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人)
 2. 率は、第 1-3 表の各在籍学校別の回答者のうち、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

在籍段階別奨学金受給者（第 6-4 表）を見ると、最も受給率が高いのは「大学院博士課程・博士後期課程」の 69.7% (264 人) で、平均月額は 80,000 円である。次いで、「大学院修士課程・博士前期課程」の 64.8% (493 人、72,000 円)、「短期大学」の 63.2% (24 人、46,000 円)、「学部正規課程」の 60.4% (1,190 人、52,000 円) と続いている。最も受給率が低いのは、「日本語教育機関」の 22.7% (160 人、50,000 円) である。

第 6-4 表 在籍段階別奨学金受給者

(Q12・24 参照)

区分	大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職 大学院 課程	大学院 レベルの 研究生	学部正 規課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期 大学	専修学校 (専門課程)	準備教 育課程	日本語 教育機関	その他	不明	計
人数 (人)	264	493	16	19	1,190	21	24	299	22	160	79	—	2,587
率 (%)	69.7	64.8	32.7	35.2	60.4	43.8	63.2	41.6	51.2	22.7	49.7	—	52.5
平成 23 年率 (%)	69.9	60.3	45.2	33.9	60.4	40.0	48.0	47.0	—	23.4	48.6	46.7	51.4
平成 21 年率 (%)	82.2	73.7	63.0	40.0	68.1	45.3	64.7	46.7	—	—	48.6	47.1	63.8
平均月額 (千円)	80	72	69	76	52	57	46	47	47	50	55	—	58
平成 23 年 (千円)	89	71	56	64	51	50	54	47	—	53	47	49	58
平成 21 年 (千円)	84	72	59	55	51	49	47	48	—	—	51	72	58

- (注) 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者 (4,923 人)
 2. 率は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

学習奨励費を受けて良かったこと（第 6-5 表）を見ると、「日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた」が 1,502 人（85.7%）で最も多い。次いで、「成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思ひになった」が 1,248 人（71.2%）となっている。

第 6-5 表 学習奨励費を受けて良かったこと（複数回答設問）（Q25(1) 参照）

区分	日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた	成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思ひになった	奨学金があるので学校のクラブ活動等に参加できるようになった	宿舎を探すのにも奨学金があると有利だった	その他	不明
人数（人）	1,502	1,248	429	302	72	86
率（%）	85.7	71.2	24.5	17.2	4.1	4.9
平成 23 年率（%）	90.9	77.3	26.4	16.6	4.8	2.1
平成 21 年率（%）	90.7	70.4	25.8	16.8	3.7	4.1

（注） 1. 回答者数は、第 6-1 表で「学習奨励費」を受給していると回答した数（1,752 人）

2. 率は、「学習奨励費」の回答者を 100 とした割合

次に、学習奨励費受給者の学習奨励費に対する要望（第 6-6 表）は、「給付期間を 1 年間から延ばしてほしい」が 958 人（54.7%）で最も多く、次いで、「給付金額の増額」が 886 人（50.6%）、「受給者数の増加」が 779 人（44.5%）と続き、いずれも他の項目と比較して強い要望がある。

第 6-6 表 学習奨励費に対する要望（複数回答設問）（Q25(2) 参照）

区分	給付金額の増額	受給者数の増加	海外で奨学金予約ができるように予約者数を増やして欲しい	給付期間を 1 年間から延ばしてほしい	母国において、学習奨励費の情報が少なかったのもっと情報提供して欲しい	学校内での選考についてもっと情報提供してほしい	その他	不明
人数（人）	886	779	193	958	415	484	25	99
率（%）	50.6	44.5	11.0	54.7	23.7	27.6	1.4	5.7
平成 23 年率（%）	55.2	50.9	12.8	59.3	27.3	28.9	1.5	2.2
平成 21 年率（%）	63.2	42.6	10.7	59.8	24.1	27.9	0.8	4.5

（注） 1. 回答者数は、第 6-1 表で「学習奨励費」を受給していると回答した数（1,752 人）

2. 率は、「学習奨励費」の回答者を 100 とした割合

7. 支出

在籍段階別の平均月支出額（第 7-1 表）を見ると、「専修学校（専門課程）」が 157,000 円で最も高い。次いで、「準備教育課程」が 154,000 円、「日本語教育機関」が 144,000 円、「短期大学」が 143,000 円、「専門職大学院課程」が 139,000 円、「学部正規課程」が 138,000 円、「大学院レベルの研究生」が 136,000 円、「大学院博士課程・博士後期課程」が 135,000 円、「大学院修士課程・博士前期課程」が 130,000 円、「学部レベルの研究生・聴講生」が 127,000 円と続いている。なお、支出の平均月額額は 140,000 円である。

第 7-1 表 在籍段階別の平均月支出額（全体と在籍段階別）（Q12・26 参照）

区分	大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職大 学院課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	日本語 教育機関	その他	全体
平均月額（千円）	135	130	139	136	138	127	143	157	154	144	137	140
平成 23 年(千円)	137	126	141	122	140	128	124	151	—	137	—	138
平成 21 年(千円)	136	127	153	113	136	123	151	149	—	—	—	138

（注）平均月額額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者（4,923 人）で、各項目の平均

大学国公私別の平均月支出額（第 7-2 表）を見ると、私立大学が 148,000 円で最も高く、公立大学が 114,000 円、国立大学が 111,000 円と続いている。

第 7-2 表 大学国公私別の平均月支出額（Q11・12・26 参照）

区分	大学			大学全体
	国立	公立	私立	
平均月額（千円）	111	114	148	136

（注） 1. 短期大学を除く。

2. 平均月額額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者（4,923 人）で、各項目の平均

居住地域別の平均月支出額（第 7-3 表）を見ると、関東地方が平均 154,000 円と全国で最も高く、四国地方が 110,000 円と最も低い。なお、東京のみでは、156,000 円となっている。

第 7-3 表 居住地域別の平均月支出額（単位：千円）（Q11・12・26・29 参照）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
高等教育機関	122	113	155	126	139	123	110	122	157	140
日本語教育機関	111	151	150	126	138	135	0	123	153	144
全体	121	115	154	126	138	124	110	122	156	140

（注）平均月額額は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者で、各項目の平均（4,923 人）

第 7-4 表 居住地域別の項目別支出内訳 (単位:千円)

(Q26・29 参照)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
学習研究費	39	34	53	42	48	44	30	41	53	48
通学費	2	2	5	4	4	2	2	3	5	4
食費	29	28	27	26	26	25	29	29	27	27
住居費	27	23	40	27	34	25	20	27	43	34
電気、ガス、水道料金	10	9	7	8	7	9	8	10	7	8
保険、医療費	2	3	2	3	3	2	3	2	2	3
趣味、娯楽費	6	4	6	5	5	4	3	6	6	5
その他の日常的な経費	5	7	7	6	7	7	8	5	7	7
残額	6	8	8	6	7	7	7	6	9	7

項目別平均月支出額の内訳(第 7-5 表)を見ると、「学習研究費」が 54,000 円と最も高く、以下「住居費」が 34,000 円、「食費」が 28,000 円、「その他の日常的な経費」が 11,000 円、「電気、ガス、水道料金」と「趣味・娯楽費」が 9,000 円と続いている。

第 7-5 表 項目別平均月支出額の内訳

(Q26 参照)

区分	学習研究費	通学費	食費	住居費	電気、ガス 水道料金	保険 医療費	趣味 娯楽費	その他の日常 的な経費	残額
人数(人)	4,375	2,748	4,753	4,893	4,275	3,811	2,905	2,920	2,300
率(%)	88.9	55.8	96.5	99.4	86.8	77.4	59.0	59.3	46.7
平均月額(千円)	54	7	28	34	9	3	9	11	16
平成 23 年率(%)	90.8	56.4	97.3	95.5	87.4	77.0	58.2	58.8	53.6
平成 23 年(千円)	54	7	25	34	8	3	8	11	13

- (注) 1. 回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者(4,923 人)
 2. 率は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

学習研究費の内訳(第 7-6 表)を見ると、「授業料」の平均月額が 46,000 円、「教科書、実習材料、文具等の経費」が 8,000 円、「サークル活動の会費、合宿費」が 5,000 円となっている。

第 7-6 表 学習研究費の内訳

(Q11・12・26 参照)

区分	授業料*	(授業料内訳) 学校種別							教科書、実習 材料、文具等 の経費*	サークル活動 の会費、合宿 費*
		国立	公立	私立	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	日本語 教育機関		
人数(人)	4,104	874	106	2,065	29	663	35	603	2,428	441
率(%)	83.4	87.5	89.1	89.7	76.3	92.2	81.4	85.7	49.3	9.0
平均月額(千円)	46	46	36	59	60	59	59	51	8	5

- (注) 1. * 印の率は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者(4,923 人)を 100 とした割合
 2. 学校種別の率は、第 1-3 表の各在籍学校別の回答者数のうち、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者を 100 とした割合
 3. 平均月額は、各項目の平均

宿舎形態と在籍学校区分による平均月支出額（第 7-7 表）については、「その他」を除き、「民間アパート・マンション等」に居住する準備教育課程生が最も高く、163,000 円を支出していることがわかる。最も低いのは、国立大学に通い大学の学生寮に住んでいる学部レベルの学生で、86,000 円である。宿舎については、第 10 節で詳しくふれる。

※大学院レベルは、博士課程・博士後期課程、修士課程・博士前期課程、専門職大学院課程、大学院レベルの研究生を示し、学部レベルは、学部正規課程・研究生・聴講生、短期大学、専修学校（専門課程）を示す。

第 7-7 表 宿舎形態と在籍学校区分による平均月支出額 (Q11・12・26・30(1)参照)

区分	国立大学			公立大学			私立大学			
	大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体	大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体	大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体	
民間アパート・マンション等	人数(人)	377	185	562	30	38	68	400	1,387	1,787
	平均支出額(千円)	121	107	116	118	115	116	155	149	150
大学・学校の学生寮 (留学生用・一般学生用)	人数(人)	208	120	328	16	16	32	77	154	231
	平均支出額(千円)	107	86	99	98	96	97	145	128	134
その他	人数(人)	80	12	92	8	10	18	45	91	136
	平均支出額(千円)	120	100	118	157	113	132	149	151	151
不明	人数(人)	1	0	1	0	0	0	1	4	5
	平均支出額(千円)	0	0	0	0	0	0	160	126	132
合計	人数(人)	666	317	983	54	64	118	523	1,636	2,159
	平均支出額(千円)	116	99	111	118	110	114	153	147	148

区分	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育課程	日本語教育機関	その他	合計	
民間アパート・マンション等	人数(人)	30	609	20	515	118	3,709
	平均支出額(千円)	142	159	163	146	141	145
大学・学校の学生寮 (留学生用・一般学生用)	人数(人)	5	59	13	120	30	818
	平均支出額(千円)	129	137	127	145	123	120
その他	人数(人)	3	51	10	62	11	383
	平均支出額(千円)	176	151	172	130	135	139
不明	人数(人)	0	0	0	7	0	13
	平均支出額(千円)	0	0	0	131	0	132
合計	人数(人)	38	719	43	704	159	4,923
	平均支出額(千円)	143	157	154	144	137	140

(注) 1. 回答者数は、Q24 及びQ26 で収入・支出の同額者 (4,923 人)
2. 平均支出額は、各項目の平均

8. アルバイト

アルバイト従事率（第 8-1 表）は全体の約 7 割以上（75.3%）で、何らかのアルバイトをしている。

第 8-1 表 アルバイト従事率

（Q27 参照）

区分	アルバイトをしている	アルバイトをしていない	不明	計
人数（人）	4,582	1,473	30	6,085
率（%）	75.3	24.2	0.5	100.0
平成 23 年率（%）	74.2	25.6	0.2	100.0
平成 21 年率（%）	75.5	23.8	0.7	100.0

在籍学校別アルバイト従事率（第 8-2 表）を見ると、準備教育課程(46.6%)、国立大学（63.3%）の従事率が 7 割以下であり、専修学校（専門課程）、私立大学、公立大学、短期大学、日本語教育機関と比べて低い。

第 8-2 表 在籍学校別アルバイト従事率

（Q11・12・27 参照）

区分	大学				短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	高等教育 機関計	日本語 教育機関	計
	国立	公立	私立	大学計						
人数（人）	681	106	2,219	3,006	43	803	23	3,875	707	4,582
率（%）	63.3	77.9	78.6	74.5	72.9	83.4	46.0	75.9	72.4	75.3
平成 23 年率（%）	66.2	68.8	77.9	74.5	83.3	74.3	—	—	72.6	74.2
平成 21 年率（%）	63.7	79.4	79.4	75.2	72.0	76.3	—	—	—	75.5

（注）率は、第 1-3 表の各在籍学校別の回答者数（6,085 人）を 100 とした割合

在籍段階別アルバイト従事率（第 8-3 表）を見ると、「専修学校(専門課程)」(83.4%)、「学部レベルの研究生・聴講生」(80.3%) は 8 割以上の者がアルバイトに従事している。

第 8-3 表 在籍段階別アルバイト従事率

（Q12・27 参照）

区分	大学院 博士課程 博士後期 課程	大学院 修士課程 博士前期 課程	専門職 大学院 課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教 育課程	日本語 教育機関	その他	計
人数（人）	271	618	53	52	1,783	57	43	803	23	706	173	4,582
率（%）	62.4	71.9	74.6	74.3	77.6	80.3	72.9	83.4	46.0	72.3	74.6	75.3
平成 23 年率（%）	60.8	71.6	74.1	74.7	78.5	78.2	83.9	79.4	—	67.8	67.5	74.2
平成 21 年率（%）	61.7	70.7	68.1	79.3	79.7	71.1	71.4	77.7	—	—	63.1	75.5

（注）率は、第 1-4 表の各在籍段階別の回答者数（6,085 人）を 100 とした割合

アルバイトの職種（第8-4表）は、軽労働の「飲食業」が2,232人（48.7%）と最も多くなっている。以下、「営業・販売（コンビニ等）」が1,133人（24.7%）、「ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント」が340人（7.4%）、「語学教師」が288人（6.3%）と続いている。

第8-4表 アルバイトの職種（複数回答設問）

（Q28(1)参照）

区分	講師				事務		軽労働					
	家庭教師	語学教師	塾講師	ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント	一般事務	経理事務	清掃	警備	ビル管理	ガソリンスタンド	配達	発送作業
人数（人）	234	288	119	340	166	21	215	11	11	6	75	42
率（%）	5.1	6.3	2.6	7.4	3.6	0.5	4.7	0.2	0.2	0.1	1.6	0.9
平成23年率（%）	3.2	7.5	1.1	5.5	3.6	0.7	4.5	0.2	0.1	0.0	1.7	0.9
平成21年率（%）	3.2	6.6	1.3	7.4	3.0	0.5	3.6	0.2	0.1	0.2	1.5	0.5

区分	軽労働				重労働				特殊技能			その他
	飲食業	営業・販売（コンビニ等）	ホテル受付・ホール係	出版物等の印刷作業	土木・建設作業	引越業	工場での組立作業	倉庫整理	翻訳通訳	プログラマーオペレーター	グラフィックデザイナー	
人数（人）	2,232	1,133	186	7	10	20	168	46	194	19	15	169
率（%）	48.7	24.7	4.1	0.2	0.2	0.4	3.7	1.0	4.2	0.4	0.3	3.7
平成23年率（%）	48.8	25.3	5.7	0.3	0.1	0.3	3.7	1.4	4.2	0.4	0.1	5.4
平成21年率（%）	51.8	25.5	6.9	0.3	0.2	0.3	3.6	0.9	3.8	0.6	0.4	2.9

区分	不明
人数（人）	19
率（%）	0.4
平成23年率（%）	0.6
平成21年率（%）	0.6

- （注） 1. 回答者数は、第8-1表でアルバイトをしていると回答した数（4,582人）
 2. 率は、第8-1表でアルバイトをしていると回答した者を100とした割合

1週間のアルバイトの時間数（第8-5表）は、「週20時間以上25時間未満」が1,377人（30.1%）と最も多く、次いで、「週15時間以上20時間未満」が1,053人（23.0%）となっている。在籍段階別では、「大学院博士課程・博士後期課程」、「大学院修士課程・博士前期課程」、で「週15時間未満」が半数以上となっているが、「専修学校（専門課程）」、「日本語教育機関」、「学部レベルの研究生・聴講生」、「短期大学」、「準備教育課程」、「学部正規課程」では逆に「週15時間以上」が6割以上である。

第8-5表 1週間のアルバイトの時間数（全体と在籍段階別）（Q12・28(2)参照）

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数（人）	33	47	65	61	47	17	1	271
	率（%）	12.2	17.3	24.0	22.5	17.3	6.3	0.4	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数（人）	57	121	161	125	114	37	3	618
	率（%）	9.2	19.6	26.1	20.2	18.4	6.0	0.5	100.0
専門職大学院課程	人数（人）	1	12	10	10	17	3	0	53
	率（%）	1.9	22.6	18.9	18.9	32.1	5.7	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数（人）	3	10	11	16	9	2	1	52
	率（%）	5.8	19.2	21.2	30.8	17.3	3.8	1.9	100.0
学部正規課程	人数（人）	75	202	369	458	488	182	9	1,783
	率（%）	4.2	11.3	20.7	25.7	27.4	10.2	0.5	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数（人）	3	5	9	13	15	11	1	57
	率（%）	5.3	8.8	15.8	22.8	26.3	19.3	1.8	100.0
短期大学	人数（人）	1	3	11	7	19	2	0	43
	率（%）	2.3	7.0	25.6	16.3	44.2	4.7	0.0	100.0
専修学校（専門課程）	人数（人）	28	53	85	160	328	144	5	803
	率（%）	3.5	6.6	10.6	19.9	40.8	17.9	0.6	100.0
準備教育課程	人数（人）	0	4	4	1	8	6	0	23
	率（%）	0.0	17.4	17.4	4.3	34.8	26.1	0.0	100.0
日本語教育機関	人数（人）	31	44	96	151	281	101	2	706
	率（%）	4.4	6.2	13.6	21.4	39.8	14.3	0.3	100.0
その他	人数（人）	14	10	22	51	51	24	1	173
	率（%）	8.1	5.8	12.7	29.5	29.5	13.9	0.6	100.0
計	人数（人）	246	511	843	1,053	1,377	529	23	4,582
	率（%）	5.4	11.2	18.4	23.0	30.1	11.5	0.5	100.0
	平成23年率（%）	6.1	10.5	17.0	23.0	29.9	9.5	4.0	100.0
	平成21年率（%）	5.8	12.9	18.7	22.6	26.4	10.0	3.6	100.0

（注） 回答者数は、第8-1表でアルバイトをしていると回答した数（4,582人）

奨学金受給の有無別に分けると、奨学金受給者のアルバイト時間数（第8-7表）は、全体では「週20時間以上25時間未満」が、579人（26.1%）と最も多く、次いで、「週15時間以上20時間未満」が519人（23.4%）となっている。また、在籍段階別では、「専門職大学院課程」、「大学院博士課程・博士後期課程」は「週15時間未満」が6割以上となっているが、「専修学校（専門課程）」、「日本語教育機関」は「週15時間以上」が6割以上となっている。

第8-6表 奨学金受給者の有無別アルバイト従事率 (Q24・27参照)

区分		アルバイトをしている	アルバイトをしていない	不明	合計
奨学金を受給している	人数(人)	2,221	730	9	2,960
	率(%)	75.0	24.7	0.3	100.0
奨学金を受給していない	人数(人)	2,361	743	21	3,125
	率(%)	75.6	23.8	0.7	100.0
合計	人数(人)	4,582	1,473	30	6,085
	率(%)	75.3	24.2	0.5	100.0

第8-7表 奨学金受給者のアルバイト時間数 (全体と在籍段階別) (Q12・24・25(2)参照)

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数(人)	28	39	42	32	24	9	0	174
	率(%)	16.1	22.4	24.1	18.4	13.8	5.2	0.0	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数(人)	36	81	101	74	63	14	3	372
	率(%)	9.7	21.8	27.2	19.9	16.9	3.8	0.8	100.0
専門職大学院課程	人数(人)	0	5	5	1	3	0	0	14
	率(%)	0.0	35.7	35.7	7.1	21.4	0.0	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	2	3	4	6	4	1	0	20
	率(%)	10.0	15.0	20.0	30.0	20.0	5.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	54	145	228	280	258	77	2	1,044
	率(%)	5.2	13.9	21.8	26.8	24.7	7.4	0.2	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	3	3	3	5	6	2	1	23
	率(%)	13.0	13.0	13.0	21.7	26.1	8.7	4.3	100.0
短期大学	人数(人)	1	2	8	3	11	2	0	27
	率(%)	3.7	7.4	29.6	11.1	40.7	7.4	0.0	100.0
専修学校(専門課程)	人数(人)	6	20	42	61	134	42	2	307
	率(%)	2.0	6.5	13.7	19.9	43.6	13.7	0.7	100.0
準備教育課程	人数(人)	0	3	4	0	4	4	0	15
	率(%)	0.0	20.0	26.7	0.0	26.7	26.7	0.0	100.0
日本語教育機関	人数(人)	8	13	23	33	49	20	1	147
	率(%)	5.4	8.8	15.6	22.4	33.3	13.6	0.7	100.0
その他	人数(人)	7	3	11	24	23	9	1	78
	率(%)	9.0	3.8	14.1	30.8	29.5	11.5	1.3	100.0
計	人数(人)	145	317	471	519	579	180	10	2,221
	率(%)	6.5	14.3	21.2	23.4	26.1	8.1	0.5	100.0
	平成23年率(%)	7.1	12.9	19.9	24.1	25.7	7.0	3.4	100.0
	平成21年率(%)	6.1	15.7	20.9	23.7	23.2	7.4	2.9	100.0

(注) 回答者数は、第8-1表でアルバイトをしていると回答(4,582人)し、かつ奨学金を受給していると回答した件数(2,221人)

奨学金非受給者のアルバイト時間数（第 8-8 表）は、全体では「週 20 時間以上 25 時間未満」が 798 人（33.8%）と最も多く、次いで「週 15 時間以上 20 時間未満」が 534 人（22.6%）となっている。在籍段階別では、「準備教育課程」、「専修学校（専門課程）」、「日本語教育機関」、「学部レベルの研究生・聴講生」、「短期大学」では「週 15 時間以上」アルバイトをしている割合が 7 割以上となっている。

また、第 8-7 表と第 8-8 表から奨学金受給者と非受給者のアルバイト時間数を比較すると、「週 15 時間以上」アルバイトをする者は、奨学金受給者の 57.6%に対して、非受給者は 71.2%となり、非受給者の方がアルバイトに費やす時間が多いことがわかる。

第 8-8 表 奨学金非受給者のアルバイト時間数（全体と在籍段階別）（Q12・24・28(2) 参照）

区分		5 時間未満	5 時間～10 時間未満	10 時間～15 時間未満	15 時間～20 時間未満	20 時間～25 時間未満	25 時間以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数（人）	5	8	23	29	23	8	1	97
	率（%）	5.2	8.2	23.7	29.9	23.7	8.2	1.0	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数（人）	21	40	60	51	51	23	0	246
	率（%）	8.5	16.3	24.4	20.7	20.7	9.3	0.0	100.0
専門職大学院課程	人数（人）	1	7	5	9	14	3	0	39
	率（%）	2.6	17.9	12.8	23.1	35.9	7.7	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数（人）	1	7	7	10	5	1	1	32
	率（%）	3.1	21.9	21.9	31.3	15.6	3.1	3.1	100.0
学部正規課程	人数（人）	21	57	141	178	230	105	7	739
	率（%）	2.8	7.7	19.1	24.1	31.1	14.2	0.9	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数（人）	0	2	6	8	9	9	0	34
	率（%）	0.0	5.9	17.6	23.5	26.5	26.5	0.0	100.0
短期大学	人数（人）	0	1	3	4	8	0	0	16
	率（%）	0.0	6.3	18.8	25.0	50.0	0.0	0.0	100.0
専修学校（専門課程）	人数（人）	22	33	43	99	194	102	3	496
	率（%）	4.4	6.7	8.7	20.0	39.1	20.6	0.6	100.0
準備教育課程	人数（人）	0	1	0	1	4	2	0	8
	率（%）	0.0	12.5	0.0	12.5	50.0	25.0	0.0	100.0
日本語教育機関	人数（人）	23	31	73	118	232	81	1	559
	率（%）	4.1	5.5	13.1	21.1	41.5	14.5	0.2	100.0
その他	人数（人）	7	7	11	27	28	15	0	95
	率（%）	7.4	7.4	11.6	28.4	29.5	15.8	0.0	100.0
計	人数（人）	101	194	372	534	798	349	13	2,361
	率（%）	4.3	8.2	15.8	22.6	33.8	14.8	0.6	100.0
	平成 23 年率（%）	4.9	8.5	14.5	22.8	34.0	11.8	3.5	100.0
	平成 21 年率（%）	4.2	9.0	16.4	23.0	31.8	12.2	3.2	100.0

（注） 回答者数は、第 8-1 表でアルバイトをしていると回答（4,582 人）し、かつ奨学金を受給していないと回答した件数（2,361 人）

アルバイトに従事する理由（第 8-9 表）は、「日本での生活を維持するために必要だから」が 3,173 人（69.2%）で約 7 割となっている。

第 8-9 表 アルバイトに従事する理由（Q25(3) 参照）

区分	日本での生活を維持するために必要だから	日本人との交流等良い機会になるから	教養・娯楽等にあてる費用を得るため	その他	不明	計
人数（人）	3,173	1,068	241	74	26	4,582
率（%）	69.2	23.3	5.3	1.6	0.6	100.0
平成 23 年（%）	70.6	23.8	3.6	1.6	0.3	100.0
平成 21 年（%）	71.1	23.3	3.9	1.2	0.5	100.0

（注） 1. 回答者数は、第 8-1 表でアルバイトをしていると回答した数（4,582 人）

2. 率は、第 8-1 表のアルバイトをしていると回答した数を 100 とした割合

アルバイトの時給額（第 8-10 表）は、全体では「800 円以上 1,000 円未満」が 2,508 人（54.7%）が最も多く、次いで、「1,000 円以上 1,200 円未満」が 1,033 人（22.5%）となっており、「800 円以上 1,200 円未満」の時給が 7 割以上となっている。

在籍段階別に見ると、2,000 円以上の時給に対する比率が最も高いのは、「大学院博士課程・博士後期課程」（4.1%）、であり、次いで、「大学院レベルの研究生」（3.8%）、「大学院修士課程・博士前記課程」（3.1%）となっており、上位の課程になると時給も高くなっている。

第 8-10 表 アルバイトの時給額（全体と在籍段階別）（Q12・28（4）参照）

区分		800 円未満	800 円～1,000 円未満	1,000 円～1,200 円未満	1,200 円～1,400 円未満	1,400 円～1,600 円未満	1,600 円～1,800 円未満	1,800 円～2,000 円未満	2,000 円以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数（人）	22	90	59	44	22	16	6	11	1	271
	率（%）	8.1	33.2	21.8	16.2	8.1	5.9	2.2	4.1	0.4	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数（人）	93	328	122	25	10	8	9	19	4	618
	率（%）	15.0	53.1	19.7	4.0	1.6	1.3	1.5	3.1	0.6	100.0
専門職大学院課程	人数（人）	7	30	14	2	0	0	0	0	0	53
	率（%）	13.2	56.6	26.4	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数（人）	9	25	11	3	1	0	0	2	1	52
	率（%）	17.3	48.1	21.2	5.8	1.9	0.0	0.0	3.8	1.9	100.0
学部正規課程	人数（人）	311	1,043	320	38	20	6	6	30	9	1,783
	率（%）	17.4	58.5	17.9	2.1	1.1	0.3	0.3	1.7	0.5	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数（人）	11	29	12	3	1	0	0	1	0	57
	率（%）	19.3	50.9	21.1	5.3	1.8	0.0	0.0	1.8	0.0	100.0
短期大学	人数（人）	16	20	7	0	0	0	0	0	0	43
	率（%）	37.2	46.5	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
専修学校（専門課程）	人数（人）	59	468	230	24	4	1	2	5	10	803
	率（%）	7.3	58.3	28.6	3.0	0.5	0.1	0.2	0.6	1.2	100.0
準備教育課程	人数（人）	0	12	8	3	0	0	0	0	0	23
	率（%）	0.0	52.2	34.8	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
日本語教育機関	人数（人）	85	377	207	19	2	2	6	6	2	706
	率（%）	12.0	53.4	29.3	2.7	0.3	0.3	0.8	0.8	0.3	100.0
その他	人数（人）	33	86	43	3	2	1	0	4	1	173
	率（%）	19.1	49.7	24.9	1.7	1.2	0.6	0.0	2.3	0.6	100.0
計	人数（人）	646	2,508	1,033	164	62	34	29	78	28	4,582
	率（%）	14.1	54.7	22.5	3.6	1.4	0.7	0.6	1.7	0.6	100.0
	平成 23 年率（%）	16.7	56.7	18.8	2.3	1.3	0.4	0.8	2.0	1.1	100.0
	平成 21 年率（%）	16.8	51.8	23.1	3.4	1.7	0.3	0.7	1.8	0.4	100.0

（注） 1. 回答者数は、第 8-1 表でアルバイトをしていると回答した数（4,582 人）

2. 率は、第 8-1 表のアルバイトをしている回答した数を 100 とした割合

9. 授業時間を除く学習・研究時間

在籍段階別学習・研究時間（第9-1表）を見ると、「大学院博士課程・博士後期課程」では、「週35時間以上」と回答した者が半数以上（264人、60.8%）であり、「大学院修士課程・博士前期課程」では、「週14時間以上35時間未満」と回答した者が半数以上（494人、57.4%）となっている。

「週28時間未満」を見ると、「日本語教育機関」（884人、90.5%）、「短期大学」（52人、88.2%）、「専門職大学院課程」（61人、86.0%）、「専修学校（専門課程）」（815人、84.5%）、「学部正規課程」（1,940人、84.4%）、「学部レベルの研究生・聴講生」（57人、80.3%）、「準備教育課程」（41人、82.0%）であり、いずれも8割以上となっている。特に「週7時間以上21時間未満」と回答した者が多い。

第9-1表 在籍段階別学習・研究時間

(Q12・14 参照)

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数(人)	9	27	21	49	63	96	62	106	1	434
	率(%)	2.1	6.2	4.8	11.3	14.5	22.1	14.3	24.4	0.2	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数(人)	41	115	186	166	142	101	36	72	1	860
	率(%)	4.8	13.4	21.6	19.3	16.5	11.7	4.2	8.4	0.1	100.0
専門職大学院課程	人数(人)	10	20	21	10	2	2	1	4	1	71
	率(%)	14.1	28.2	29.6	14.1	2.8	2.8	1.4	5.6	1.4	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	5	14	13	16	7	7	6	2	0	70
	率(%)	7.1	20.0	18.6	22.9	10.0	10.0	8.6	2.9	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	357	629	589	365	183	91	42	40	3	2,299
	率(%)	15.5	27.4	25.6	15.9	8.0	4.0	1.8	1.7	0.1	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	8	11	21	17	5	4	2	3	0	71
	率(%)	11.3	15.5	29.6	23.9	7.0	5.6	2.8	4.2	0.0	100.0
短期大学	人数(人)	9	23	11	9	4	2	0	1	0	59
	率(%)	15.3	39.0	18.6	15.3	6.8	3.4	0.0	1.7	0.0	100.0
専修学校(専門課程)	人数(人)	193	220	246	156	86	32	14	13	3	963
	率(%)	20.0	22.8	25.5	16.2	8.9	3.3	1.5	1.3	0.3	100.0
準備教育課程	人数(人)	5	13	15	8	0	4	1	2	2	50
	率(%)	10.0	26.0	30.0	16.0	0.0	8.0	2.0	4.0	4.0	100.0
日本語教育機関	人数(人)	180	206	365	133	49	18	9	7	9	976
	率(%)	18.4	21.1	37.4	13.6	5.0	1.8	0.9	0.7	0.9	100.0
その他	人数(人)	23	55	62	49	17	9	2	5	10	232
	率(%)	9.9	23.7	26.7	21.1	7.3	3.9	0.9	2.2	4.3	100.0
計	人数(人)	840	1,333	1,550	978	558	366	175	255	30	6,085
	率(%)	13.8	21.9	25.5	16.1	9.2	6.0	2.9	4.2	0.5	100.0
	平成23年率(%)	12.0	23.6	24.2	15.5	10.9	5.5	2.8	4.5	0.9	100.0
	平成21年率(%)	12.2	23.5	24.0	15.1	11.3	6.0	3.2	4.5	0.3	100.0

奨学金受給者及び非受給者の在籍段階別学習・研究時間（第9-2表と第9-3表）を比較すると、全体として奨学金受給者の方が非受給者よりも学習・研究時間が比較的多い。

「学部レベルの研究生・聴講生」と「短期大学」を除き、「週14時間未満」の割合が、受給者から非受給者になると増加し、「週28時間以上」の割合が増加している。

第9-2表 奨学金受給者の在籍段階別学習・研究時間

(Q12・14・24 参照)

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
大学院博士課程・博士後期課程	人数(人)	3	16	12	23	38	68	38	66	0	264
	率(%)	1.1	6.1	4.5	8.7	14.4	25.8	14.4	25.0	0.0	100.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数(人)	17	59	110	103	84	56	19	45	0	493
	率(%)	3.4	12.0	22.3	20.9	17.0	11.4	3.9	9.1	0.0	100.0
専門職大学院課程	人数(人)	2	2	6	3	0	1	1	1	0	16
	率(%)	12.5	12.5	37.5	18.8	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	0	4	1	6	3	2	3	0	0	19
	率(%)	0.0	21.1	5.3	31.6	15.8	10.5	15.8	0.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	140	316	330	205	94	55	27	22	1	1,190
	率(%)	11.8	26.6	27.7	17.2	7.9	4.6	2.3	1.8	0.1	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	4	4	7	3	2	0	0	1	0	21
	率(%)	19.0	19.0	33.3	14.3	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	100.0
短期大学	人数(人)	2	9	7	3	2	1	0	0	0	24
	率(%)	8.3	37.5	29.2	12.5	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	100.0
専修学校(専門課程)	人数(人)	35	90	75	46	29	12	8	3	1	299
	率(%)	11.7	30.1	25.1	15.4	9.7	4.0	2.7	1.0	0.3	100.0
準備教育課程	人数(人)	1	5	8	3	0	3	0	1	1	22
	率(%)	4.5	22.7	36.4	13.6	0.0	13.6	0.0	4.5	4.5	100.0
日本語教育機関	人数(人)	19	30	63	29	15	1	2	0	1	160
	率(%)	11.9	18.8	39.4	18.1	9.4	0.6	1.3	0.0	0.6	100.0
その他	人数(人)	5	17	29	12	5	5	2	0	4	79
	率(%)	6.3	21.5	36.7	15.2	6.3	6.3	2.5	0.0	5.1	100.0
計	人数(人)	228	552	648	436	272	204	100	139	8	2,587
	率(%)	8.8	21.3	25.0	16.9	10.5	7.9	3.9	5.4	0.3	100.0
	平成23年率(%)	10.5	24.9	25.4	16.3	8.7	7.5	2.6	3.9	0.2	100.0
	平成21年率(%)	9.0	22.0	25.1	15.9	11.8	6.2	3.5	5.7	0.7	100.0

(注) 回答者数は、第5-4表の奨学金受給者数(2,587人)

第 9-3 表 奨学金非受給者の在籍段階別学習・研究時間

(Q12・14・24 参照)

区分		7時間 未満	7～14 時間未満	14～21 時間未満	21～28 時間未満	28～35 時間未満	35～42 時間未満	42～49 時間未満	49時間 以上	不明	計
大学院博士課程 ・博士後期課程	人数(人)	4	3	7	18	19	20	18	26	0	115
	率(%)	3.5	2.6	6.1	15.7	16.5	17.4	15.7	22.6	0.0	100.0
大学院修士課程 ・博士前期課程	人数(人)	15	41	61	46	41	34	11	19	0	268
	率(%)	5.6	15.3	22.8	17.2	15.3	12.7	4.1	7.1	0.0	100.0
専門職大学院 課程	人数(人)	5	11	8	5	2	1	0	1	0	33
	率(%)	15.2	33.3	24.2	15.2	6.1	3.0	0.0	3.0	0.0	100.0
大学院レベルの 研究生	人数(人)	3	5	9	6	4	4	3	1	0	35
	率(%)	8.6	14.3	25.7	17.1	11.4	11.4	8.6	2.9	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	150	232	184	116	59	16	9	11	2	779
	率(%)	19.3	29.8	23.6	14.9	7.6	2.1	1.2	1.4	0.3	100.0
学部レベルの 研究生・聴講生	人数(人)	0	3	10	7	1	3	1	2	0	27
	率(%)	0.0	11.1	37.0	25.9	3.7	11.1	3.7	7.4	0.0	100.0
短期大学	人数(人)	3	4	3	2	2	0	0	0	0	14
	率(%)	21.4	28.6	21.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
専修学校 (専門課程)	人数(人)	111	83	108	63	36	6	4	8	1	420
	率(%)	26.4	19.8	25.7	15.0	8.6	1.4	1.0	1.9	0.2	100.0
準備教育課程	人数(人)	3	6	6	4	0	1	0	0	1	21
	率(%)	14.3	28.6	28.6	19.0	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	100.0
日本語教育機関	人数(人)	100	129	204	67	21	11	5	4	3	544
	率(%)	18.4	23.7	37.5	12.3	3.9	2.0	0.9	0.7	0.6	100.0
その他	人数(人)	8	23	22	17	5	1	0	1	3	80
	率(%)	10.0	28.8	27.5	21.3	6.3	1.3	0.0	1.3	3.8	100.0
計	人数(人)	402	540	622	351	190	97	51	73	10	2,336
	率(%)	17.2	23.1	26.6	15.0	8.1	4.2	2.2	3.1	0.4	100.0
	平成23年率(%)	16.4	27.9	26.9	14.4	6.4	4.1	1.5	2.0	0.4	100.0
	平成21年率(%)	15.0	26.4	23.5	14.9	9.9	4.6	1.8	3.2	0.7	100.0

(注) 回答者数は、第6-3表の奨学金非受給者数(2,336人)

専攻別の学習・研究時間（第9-4表）を見ると、「社会科学」、「日本語」は、いずれも「週21時間未満」（1日当たり平均3時間）が6割以上となっている。

一方、「薬学」、「医・歯学」は、「週28時間以上」（1日当たり平均4時間以上）が、それぞれ14人（70.0%）、57人（69.6%）となっている。

「理学」「農学」では、「週7時間以上14時間未満」がそれぞれ26人（16.5%）、20人（17.5%）、「人文科学」「工学」「教育」では、「週14時間以上21時間未満」がそれぞれ134人（23.9%）、159人（20.3%）、32人（24.2%）が最も多かったが、その他の時間にも広く散らばっている。

第9-4表 専攻別の学習・研究時間

（Q13・14参照）

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
人文科学	人数（人）	77	122	134	102	54	40	16	15	0	560
	率（%）	13.8	21.8	23.9	18.2	9.6	7.1	2.9	2.7	0.0	100.0
社会科学	人数（人）	235	452	466	330	161	84	34	51	3	1,816
	率（%）	12.9	24.9	25.7	18.2	8.9	4.6	1.9	2.8	0.2	100.0
理学	人数（人）	13	26	23	24	16	21	11	23	1	158
	率（%）	8.2	16.5	14.6	15.2	10.1	13.3	7.0	14.6	0.6	100.0
工学	人数（人）	71	121	159	120	103	91	46	72	1	784
	率（%）	9.1	15.4	20.3	15.3	13.1	11.6	5.9	9.2	0.1	100.0
農学	人数（人）	12	20	13	18	11	10	11	19	0	114
	率（%）	10.5	17.5	11.4	15.8	9.6	8.8	9.6	16.7	0.0	100.0
医・歯学	人数（人）	2	6	7	10	13	14	12	18	0	82
	率（%）	2.4	7.3	8.5	12.2	15.9	17.1	14.6	22.0	0.0	100.0
薬学	人数（人）	2	1	1	2	1	4	3	6	0	20
	率（%）	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	20.0	15.0	30.0	0.0	100.0
家政	人数（人）	19	25	20	13	25	5	3	3	0	113
	率（%）	16.8	22.1	17.7	11.5	22.1	4.4	2.7	2.7	0.0	100.0
教育	人数（人）	8	26	32	29	14	11	7	5	0	132
	率（%）	6.1	19.7	24.2	22.0	10.6	8.3	5.3	3.8	0.0	100.0
日本語	人数（人）	246	312	510	210	81	31	14	15	12	1,431
	率（%）	17.2	21.8	35.6	14.7	5.7	2.2	1.0	1.1	0.8	100.0
その他	人数（人）	155	222	185	120	79	55	18	28	13	875
	率（%）	18.0	25.4	21.1	13.7	9.0	6.3	2.1	3.2	1.5	100.0
計	人数（人）	840	1,333	1,550	978	558	366	175	255	30	6,085
	率（%）	13.8	21.9	25.5	16.1	9.2	6.0	2.9	4.2	0.5	100.0
	平成23年率（%）	14.6	26.5	25.6	15.3	7.3	5.4	1.9	2.9	0.5	100.0
	平成21年率（%）	12.0	23.6	24.2	15.5	10.9	5.5	2.8	4.5	0.9	100.0

専攻別の奨学金受給者及び非受給者の学習・研究時間（第 9-5 表と第 9-6 表）を比較すると、全体として奨学金受給者の方が非受給者よりも学習・研究時間が比較的多い。「人文科学」、「農学」、「薬学」、「日本語」を除いて、受給者から非受給者になると「週 14 時間未満」の割合が増加し、「週 28 時間以上」の割合が減少している。

第 9-5 表 専攻別の奨学金受給者の学習・研究時間

(Q13・14・24 参照)

区分		7 時間 未満	7～14 時間未満	14～21 時間未満	21～28 時間未満	28～35 時間未満	35～42 時間未満	42～49 時間未満	49 時間 以上	不明	計
人文科学	人数 (人)	27	70	71	57	24	23	10	10	0	292
	率 (%)	9.2	24.0	24.3	19.5	8.2	7.9	3.4	3.4	0.0	100.0
社会科学	人数 (人)	81	219	261	165	96	55	17	22	0	916
	率 (%)	8.8	23.9	28.5	18.0	10.5	6.0	1.9	2.4	0.0	100.0
理学	人数 (人)	5	7	11	12	9	15	8	13	0	80
	率 (%)	6.3	8.8	13.8	15.0	11.3	18.8	10.0	16.3	0.0	100.0
工学	人数 (人)	22	57	82	62	53	46	29	45	1	397
	率 (%)	5.5	14.4	20.7	15.6	13.4	11.6	7.3	11.3	0.3	100.0
農学	人数 (人)	6	10	5	11	9	7	5	12	0	65
	率 (%)	9.2	15.4	7.7	16.9	13.8	10.8	7.7	18.5	0.0	100.0
医・歯学	人数 (人)	1	2	3	6	6	11	8	13	0	50
	率 (%)	2.0	4.0	6.0	12.0	12.0	22.0	16.0	26.0	0.0	100.0
薬学	人数 (人)	2	1	0	2	1	2	2	2	0	12
	率 (%)	16.7	8.3	0.0	16.7	8.3	16.7	16.7	16.7	0.0	100.0
家政	人数 (人)	7	9	7	6	9	4	2	0	0	44
	率 (%)	15.9	20.5	15.9	13.6	20.5	9.1	4.5	0.0	0.0	100.0
教育	人数 (人)	2	13	16	12	6	7	5	1	0	62
	率 (%)	3.2	21.0	25.8	19.4	9.7	11.3	8.1	1.6	0.0	100.0
日本語	人数 (人)	33	70	116	50	27	7	4	5	2	314
	率 (%)	10.5	22.3	36.9	15.9	8.6	2.2	1.3	1.6	0.6	100.0
その他	人数 (人)	42	94	76	53	32	27	10	16	5	355
	率 (%)	11.8	26.5	21.4	14.9	9.0	7.6	2.8	4.5	1.4	100.0
計	人数 (人)	228	552	648	436	272	204	100	139	8	2,587
	率 (%)	8.8	21.3	25.0	16.9	10.5	7.9	3.9	5.4	0.3	100.0
	平成 23 年率 (%)	10.5	24.9	25.4	16.3	8.7	7.5	2.6	3.9	0.2	100.0
	平成 21 年率 (%)	9.0	22.0	25.1	15.9	11.8	6.2	3.5	5.7	0.7	100.0

(注) 回答者数は、第 5-4 表の奨学金受給者数 (2,587 人)

第 9-6 表 専攻別の奨学金非受給者の学習・研究時間

(Q13・14・24 参照)

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
人文科学	人数(人)	29	30	42	24	20	10	4	3	0	162
	率(%)	17.9	18.5	25.9	14.8	12.3	6.2	2.5	1.9	0.0	100.0
社会科学	人数(人)	105	164	142	118	42	15	10	21	2	619
	率(%)	17.0	26.5	22.9	19.1	6.8	2.4	1.6	3.4	0.3	100.0
理学	人数(人)	4	14	6	9	6	5	3	4	0	51
	率(%)	7.8	27.5	11.8	17.6	11.8	9.8	5.9	7.8	0.0	100.0
工学	人数(人)	28	41	58	39	36	30	13	17	0	262
	率(%)	10.7	15.6	22.1	14.9	13.7	11.5	5.0	6.5	0.0	100.0
農学	人数(人)	4	5	7	4	2	3	6	6	0	37
	率(%)	10.8	13.5	18.9	10.8	5.4	8.1	16.2	16.2	0.0	100.0
医・歯学	人数(人)	1	3	4	2	5	3	1	4	0	23
	率(%)	4.3	13.0	17.4	8.7	21.7	13.0	4.3	17.4	0.0	100.0
薬学	人数(人)	0	0	1	0	0	1	0	3	0	5
	率(%)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0	0.0	100.0
家政	人数(人)	11	15	12	4	15	0	1	2	0	60
	率(%)	18.3	25.0	20.0	6.7	25.0	0.0	1.7	3.3	0.0	100.0
教育	人数(人)	4	11	14	11	3	4	1	1	0	49
	率(%)	8.2	22.4	28.6	22.4	6.1	8.2	2.0	2.0	0.0	100.0
日本語	人数(人)	136	168	256	97	28	14	6	5	4	714
	率(%)	19.0	23.5	35.9	13.6	3.9	2.0	0.8	0.7	0.6	100.0
その他	人数(人)	80	89	80	43	33	12	6	7	4	354
	率(%)	22.6	25.1	22.6	12.1	9.3	3.4	1.7	2.0	1.1	100.0
計	人数(人)	402	540	622	351	190	97	51	73	10	2,336
	率(%)	17.2	23.1	26.6	15.0	8.1	4.2	2.2	3.1	0.4	100.0
	平成23年率(%)	15.0	26.4	23.5	14.9	9.9	4.6	1.8	3.2	0.7	100.0
	平成21年率(%)	13.8	24.1	22.9	16.4	11.0	5.6	2.4	3.5	0.4	100.0

(注) 回答者数は、第6-3表の奨学金非受給者数(2,336人)

奨学金の受給金額と学習・研究時間(第9-7表)を見ると、奨学金の非受給者においては、「週28時間未満」が約8割であり、中でも、「週14時間以上21時間未満」の622人(26.6%)が最も多い。

奨学金7万円未満の受給者では、学習・研究時間は、「週14時間以上21時間未満」が最も多く、「5万円未満」受給者では28.6%(484人)、「5万円以上7万円未満」受給者では20.3%(101人)となっている。

第 9-7 表 奨学金の受給金額と学習・研究時間

(Q14・24 参照)

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計	
奨学金なし	人数(人)	402	540	622	351	190	97	51	73	10	2,336	
	率(%)	17.2	23.1	26.6	15.0	8.1	4.2	2.2	3.1	0.4	100.0	
奨学金あり	5万円未満	人数(人)	189	427	484	278	151	89	41	28	6	1,693
		率(%)	11.2	25.2	28.6	16.4	8.9	5.3	2.4	1.7	0.4	100.0
	5万円以上7万円未満	人数(人)	21	69	101	88	75	60	28	55	1	498
		率(%)	4.2	13.9	20.3	17.7	15.1	12.0	5.6	11.0	0.2	100.0
	7万円以上9万円未満	人数(人)	8	17	15	17	13	16	6	11	0	103
		率(%)	7.8	16.5	14.6	16.5	12.6	15.5	5.8	10.7	0.0	100.0
	9万円以上11万円未満	人数(人)	4	21	25	25	15	9	11	16	1	127
		率(%)	3.1	16.5	19.7	19.7	11.8	7.1	8.7	12.6	0.8	100.0
	11万円以上	人数(人)	6	18	23	28	18	30	14	29	0	166
		率(%)	3.6	10.8	13.9	16.9	10.8	18.1	8.4	17.5	0.0	100.0

(注) 回答者数は、第5-3表の奨学金受給者数(2,587)、及び第6-2表の奨学金非受給者数(2,336人)

10. 宿舍

宿舍の形態（第 10-1 表）は、「民間アパート・マンション等」に居住する者が、4,584 人（75.3%）と最も多い。

第 10-1 表 宿舍の形態

（Q11・12・30(1) 参照）

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計	
大学	国立	人数（人）	619	232	123	28	48	8	5	10	3	1,076
		率（%）	57.5	21.6	11.4	2.6	4.5	0.7	0.5	0.9	0.3	100.0
	公立	人数（人）	84	25	7	13	4	2	0	1	0	136
		率（%）	61.8	18.4	5.1	9.6	2.9	1.5	0.0	0.7	0.0	100.0
	私立	人数（人）	2,297	213	109	41	56	26	14	55	13	2,824
		率（%）	81.3	7.5	3.9	1.5	2.0	0.9	0.5	1.9	0.5	100.0
大学計		人数（人）	3,000	470	239	82	108	36	19	66	16	4,036
		率（%）	74.3	11.6	5.9	2.0	2.7	0.9	0.5	1.6	0.4	100.0
短期大学		人数（人）	49	3	3	0	1	0	2	0	1	59
		率（%）	83.1	5.1	5.1	0.0	1.7	0.0	3.4	0.0	1.7	100.0
専修学校（専門課程）		人数（人）	804	33	38	15	22	8	7	32	4	963
		率（%）	83.5	3.4	3.9	1.6	2.3	0.8	0.7	3.3	0.4	100.0
準備教育機関		人数（人）	22	10	7	4	3	1	1	1	1	50
		率（%）	44.0	20.0	14.0	8.0	6.0	2.0	2.0	2.0	2.0	100.0
日本語教育機関		人数（人）	709	94	73	14	20	9	17	30	11	977
		率（%）	72.6	9.6	7.5	1.4	2.0	0.9	1.7	3.1	1.1	100.0
計		人数（人）	4,584	610	360	115	154	54	46	129	33	6,085
		率（%）	75.3	10.0	5.9	1.9	2.5	0.9	0.8	2.1	0.5	100.0
		平成 23 年率（%）	74.5	9.5	6.3	1.6	2.6	1.1	1.1	2.3	1.0	100.0
		平成 21 年率（%）	76.4	6.7	6.9	2.5	2.9	0.8	1.1	1.9	0.8	100.0

在籍学校別の宿舎形態の率（年度別比較表）（第 10-2 表）を見ると、「大学・学校の留学生用宿舎」の割合が伸びている。

第 10-2 表 在籍学校別の宿舎形態の率（単位％）（年度別比較表）（Q11・12・30(1)参照）

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計	
大学	国立	平成 25 年	57.5	21.6	11.4	2.6	4.5	0.7	0.5	0.9	0.3	100.0
		平成 23 年	60.3	18.8	9.2	2.7	5.1	1.7	0.2	1.4	0.7	100.0
		平成 21 年	59.4	12.7	13.1	5.8	4.9	1.2	0.8	1.5	0.5	100.0
	公立	平成 25 年	61.8	18.4	5.1	9.6	2.9	1.5	0.0	0.7	0.0	100.0
		平成 23 年	66.1	21.1	4.6	1.8	3.7	0.0	0.9	0.0	1.8	100.0
		平成 21 年	66.0	15.6	7.8	4.3	5.7	0.0	0.0	0.7	0.0	100.0
	私立	平成 25 年	81.3	7.5	3.9	1.5	2.0	0.9	0.5	1.9	0.5	100.0
		平成 23 年	81.2	6.3	4.0	1.6	2.0	0.9	0.9	2.2	0.9	100.0
		平成 21 年	81.4	5.0	5.1	1.5	2.6	0.7	1.0	1.8	0.8	100.0
	大学計	平成 25 年	74.3	11.6	5.9	2.0	2.7	0.9	0.5	1.6	0.4	100.0
		平成 23 年	75.2	10.0	5.4	1.9	2.9	1.1	0.7	1.9	0.9	100.0
		平成 21 年	75.1	7.4	7.3	2.8	3.3	0.8	0.9	1.7	0.7	100.0
短期大学	平成 25 年	83.1	5.1	5.1	0.0	1.7	0.0	3.4	0.0	1.7	100.0	
	平成 23 年	65.0	15.0	8.3	0.0	1.7	1.7	1.7	0.0	6.7	100.0	
	平成 21 年	66.0	15.0	15.0	1.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	100.0	
専修学校（専門課程）	平成 25 年	83.5	3.4	3.9	1.6	2.3	0.8	0.7	3.3	0.4	100.0	
	平成 23 年	76.8	7.4	6.4	1.5	2.3	0.9	1.7	2.4	0.5	100.0	
	平成 21 年	80.5	4.4	5.1	1.8	2.1	0.9	1.4	2.6	1.2	100.0	
準備教育課程	平成 25 年	44.0	20.0	14.0	8.0	6.0	2.0	2.0	2.0	2.0	100.0	
	平成 23 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	平成 21 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本語教育機関	平成 25 年	72.6	9.6	7.5	1.4	2.0	0.9	1.7	3.1	1.1	100.0	
	平成 23 年	70.7	9.3	9.1	1.0	2.1	1.4	1.9	3.3	1.2	100.0	
	平成 21 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	平成 25 年	75.3	10.0	5.9	1.9	2.5	0.9	0.8	2.1	0.5	100.0	
	平成 23 年	74.5	9.5	6.3	1.6	2.6	1.1	1.1	2.3	1.0	100.0	
	平成 21 年	76.4	6.7	6.9	2.5	2.9	0.8	1.1	1.9	0.8	100.0	

宿舎を選ぶ際に重視したもの（第 10-3 表）は、「家賃・初期費用」が 5,251 人（86.3%）と最も多く、「学校からの距離・通学時間」が 4,163 人（68.4%）、「周辺環境の利便性」が 2,711 人（44.6%）と続く。

第 10-3 表 宿舎を選ぶ際に重視したもの（複数回答設問）（Q30(2)参照）

区分		家賃 初期費用	間取り 広さ	設備	学校から の距離 通学時間	周辺環境 の利便性	セキュ リティ	日本人と の交流	留学生 同士の 交流
高等教育機関	人数（人）	4,434	898	1,024	3,527	2,276	584	275	193
	率（%）	86.8	17.6	20.0	69.0	44.6	11.4	5.4	3.8
日本語教育機関	人数（人）	817	166	235	636	435	109	64	23
	率（%）	83.6	17.0	24.1	65.1	44.5	11.2	6.6	2.4
合計	人数（人）	5,251	1,064	1,259	4,163	2,711	693	339	216
	率（%）	86.3	17.5	20.7	68.4	44.6	11.4	5.6	3.5

一人当たりの専有面積（第 10-4 表）は、「7.5 m²以上 10 m²（約 5～6 畳）未満」が 1,481 人（24.3%）と最も多く、「15 m²（約 9 畳）未満」が全体の約 7 割（73.0%）となっている。

第 10-4 表 一人当たりの専有面積

（Q30(3) 参照）

区分	5 m ² 未満	5～7.5 m ² 未満	7.5～10 m ² 未満	10～12.5 m ² 未満	12.5～15 m ² 未満	15～17.5 m ² 未満	17.5～20 m ² 未満	20～25 m ² 未満	25 m ² 以上	不明	計
人数（人）	457	1,093	1,481	779	634	431	496	329	278	107	6,085
率（%）	7.5	18.0	24.3	12.8	10.4	7.1	8.2	5.4	4.6	1.8	100.0
平成 23 年率（%）	9.2	19.2	27.7	12.9	9.4	5.4	6.5	4.3	3.4	2.0	100.0
平成 21 年率（%）	9.6	19.5	30.9	12.9	9.5	5.1	4.8	3.6	2.4	1.6	100.0

部屋の設備（第 10-5 表）として、「キッチン」、「バス・シャワー」、「トイレ」の有無を見ると、約 7 割以上の者が個別のキッチン（71.6%）、バス・シャワー（71.3%）、トイレ（73.6%）付きの部屋に居住している。また、「部屋にはないが共同」はそれぞれ約 2 割となっている。

第 10-5 表 部屋の設備

（Q30(4) 参照）

区分		部屋にある	部屋にはないが共同	なし	不明
キッチン	人数（人）	4,354	1,170	59	502
	率（%）	71.6	19.2	1.0	8.2
	平成 23 年率（%）	74.6	23.6	1.4	0.4
	平成 21 年率（%）	77.9	19.6	1.8	0.7
バス・シャワー	人数（人）	4,338	1,154	27	566
	率（%）	71.3	19.0	0.4	9.3
	平成 23 年率（%）	74.8	23.7	1.0	0.5
	平成 21 年率（%）	77.9	19.9	1.4	0.8
トイレ	人数（人）	4,477	1,015	—	593
	率（%）	73.6	16.7	—	9.7
	平成 23 年率（%）	77.1	22.4	—	0.5
	平成 21 年率（%）	80.8	18.5	—	0.8

（注）「トイレ」の設間には「なし」の選択肢はない

同居人の有無（第 10-6 表）については、「日本で単身で住んでいる」と回答した者は、3,098 人（50.9%）で、全体の約半数となっている。

第 10-6 表 同居人の有無

（Q31 参照）

区分	単身	同居	不明	計
人数（人）	3,098	2,852	135	6,085
率（%）	50.9	46.9	2.2	100.0
平成 23 年率（%）	49.9	49.9	0.2	100.0
平成 21 年率（%）	52.3	47.3	0.4	100.0

「同居人がいる」と回答した者のうち、同居人の数（第 10-7 表）が「1 人」と回答した者が 1,181 人（41.4%）で最も多く、次いで、「2 人」と回答した者が 953 人（33.4%）となっている。

第 10-7 表 同居人の数

（Q32(1) 参照）

区分	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	不明	計
人数（人）	1,181	953	391	136	131	60	2,852
率（%）	41.4	33.4	13.7	4.8	4.6	2.1	100.0
平成 23 年率（%）	47.5	30.0	12.3	4.6	4.3	1.3	100.0
平成 21 年率（%）	49.9	30.5	10.6	4.5	2.9	1.7	100.0

（注）回答者数は、第 10-6 表で同居人ありと回答した数（2,852 人）

同居人の種類（第 10-8 表）を見ると、「外国人留学生」と回答した者が約 6 割の 1,567 人（54.9%）で最も多く、次いで、「配偶者又は家族」の 830 人（29.1%）となっている。

第 10-8 表 同居人の種類 (Q32(2) 参照)

区分	配偶者又は家族	外国人留学生	日本人学生	その他	不明	計
人数 (人)	830	1,567	66	280	109	2,852
率 (%)	29.1	54.9	2.3	9.8	3.8	100.0
平成 23 年率 (%)	26.9	57.5	2.5	10.4	2.8	100.0
平成 21 年率 (%)	30.1	55.2	2.5	9.6	2.6	100.0

(注) 回答者数は、第 10-6 表で同居人ありと回答した数 (2,852 人)

宿舎の形態による単身・同居の状況（第 10-9 表）を見ると、「単身居住者」、「同居者のいる者」のどちらも「民間のアパートやマンション等」に 7 割以上が居住している。

また、「大学・学校の留学生用宿舎」、「大学・学校の一般学生寮」、「県・市・財団法人の留学生宿舎」「企業の社員寮」では、「単身居住者」の割合が大きい。

第 10-9 表 宿舎の形態による単身・同居の状況 (Q30(1)・31 参照)

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計
単身	人数 (人)	2,302	375	208	90	35	42	6	35	5	3,098
	率 (%)	74.3	12.1	6.7	2.9	1.1	1.4	0.2	1.1	0.2	100.0
同居	人数 (人)	2,186	226	145	20	116	11	40	93	15	2,852
	率 (%)	76.6	7.9	5.1	0.7	4.1	0.4	1.4	3.3	0.5	100.0
不明	人数 (人)	96	9	7	5	3	1	0	1	13	135
	率 (%)	71.1	6.7	5.2	3.7	2.2	0.7	0.0	0.7	9.6	100.0
合計	人数 (人)	4,584	610	360	115	154	54	46	129	33	6,085
	率 (%)	75.3	10.0	5.9	1.9	2.5	0.9	0.8	2.1	0.5	100.0
	平成 23 年率 (%)	74.5	9.5	6.3	1.6	2.6	1.1	1.1	2.3	1.0	100.0
	平成 21 年率 (%)	76.4	6.7	6.9	2.5	2.9	0.8	1.1	1.9	0.8	100.0

居住地域別の住居費（第 10-10 表）を見ると、関東地方が平均月額 41,000 円と全国で最も高くなっている。一方、平均月額が低いのは四国地方で 21,000 円となっている。なお、東京のみでは、43,000 円となっている。

第 10-10 表 居住地域別の住居費 (年度別比較表) (Q26・29 参照)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
平成 25 年 (千円)	28	23	41	28	35	25	21	25	43	35
平成 23 年 (千円)	26	23	40	27	33	24	23	26	43	34
平成 21 年 (千円)	25	24	41	29	33	25	24	25	44	34

宿舎の形態別の住居費（第 10-11 表）を見ると、「民間アパート・マンション等」は「2 万円以上 5 万円未満」が約半数（73.9%）であり、「大学・学校の留学生用宿舎」は、「1 万円以上 4 万円未満」が約半数（64.8%）となっている。全体では「2 万円以上 5 万円未満」が約 7 割（68.2%）となっている。

第 10-11 表 宿舎の形態別の住居費

（Q26・30(1) 参照）

区分		1 万円未満	1～2 万円未満	2～3 万円未満	3～4 万円未満	4～5 万円未満	5～6 万円未満	6～7 万円未満	7 万円以上	不明	計
民間アパート・マンション等	人数 (人)	43	158	860	1,222	662	344	165	125	130	3,709
	率 (%)	1.2	4.3	23.2	32.9	17.8	9.3	4.4	3.4	3.5	100.0
大学・学校の留学生用宿舎	人数 (人)	79	133	103	95	53	21	11	0	16	511
	率 (%)	15.5	26.0	20.2	18.6	10.4	4.1	2.2	0.0	3.1	100.0
大学・学校の一般学生寮	人数 (人)	46	75	60	57	35	13	6	1	14	307
	率 (%)	15.0	24.4	19.5	18.6	11.4	4.2	2.0	0.3	4.6	100.0
県・市・財団法人の留学生宿舎	人数 (人)	3	7	31	23	9	10	8	2	4	97
	率 (%)	3.1	7.2	32.0	23.7	9.3	10.3	8.2	2.1	4.1	100.0
公営住宅等の一般公的宿舎	人数 (人)	6	32	24	24	19	5	4	2	4	120
	率 (%)	5.0	26.7	20.0	20.0	15.8	4.2	3.3	1.7	3.3	100.0
企業の社員寮	人数 (人)	5	8	9	10	2	1	0	1	5	41
	率 (%)	12.2	19.5	22.0	24.4	4.9	2.4	0.0	2.4	12.2	100.0
ホームステイ	人数 (人)	4	4	3	1	3	3	0	1	9	28
	率 (%)	14.3	14.3	10.7	3.6	10.7	10.7	0.0	3.6	32.1	100.0
その他	人数 (人)	9	8	9	22	13	7	5	2	22	97
	率 (%)	9.3	8.2	9.3	22.7	13.4	7.2	5.2	2.1	22.7	100.0
不明	人数 (人)	1	0	1	7	1	0	0	0	3	13
	率 (%)	7.7	0.0	7.7	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	100.0
合計	人数 (人)	196	425	1,100	1,461	797	404	199	134	207	4,923
	率 (%)	4.0	8.6	22.3	29.7	16.2	8.2	4.0	2.7	4.2	100.0
	平成 23 年率 (%)	2.5	9.7	23.2	29.1	15.7	8.7	3.7	2.8	4.5	100.0
	平成 21 年率 (%)	3.4	8.6	21.0	30.9	16.5	8.0	3.5	3.7	4.5	100.0

（注）回答者数は、Q24 及び Q26 で収入・支出の同額者（4,923 人）

宿舎入居にかかる敷金・礼金、保証金等の金額（第 10-12 表）は「5 万円未満」と回答した者が 2,040 人（33.5%）と最も多く、次いで、「なし」と回答した者が 1,201 人（19.7%）、「5 万円以上 10 万円未満」が 1,486 人（24.4%）となっている。

第 10-12 表 宿舎入居にかかる敷金・礼金、保証金等の金額

（Q33 参照）

区分	なし	5 万円未満	5～10 万円未満	10～20 万円未満	20～30 万円未満	30～40 万円未満	40～50 万円未満	50 万円以上	不明	計
人数 (人)	1,201	2,040	1,486	906	245	41	11	12	143	6,085
率 (%)	19.7	33.5	24.4	14.9	4.0	0.7	0.2	0.2	2.4	100.0
平成 23 年率 (%)	25.2	29.9	22.7	14.1	4.0	1.0	0.2	0.1	2.9	100.0
平成 21 年率 (%)	23.2	23.6	21.3	19.0	7.4	2.1	0.6	0.2	2.7	100.0

宿舎の形態別の敷金・礼金、保証金等（第 10-13 表）を見ると、「大学・学校の留学生用宿舎・学生寮」、「企業の社員寮」は 8 割以上が敷金・礼金、保証金等が「なし」か、「5 万円未満」となっている。一方で、「公営住宅等の一般公的宿舎」に居住する者は 6 割以上が「5 万円未満」か、「5 万円以上 10 万円未満」となっている。

第 10-13 表 宿舎の形態別の敷金・礼金、保証金等

(Q30(1)・33 参照)

区分		なし	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～40万円未満	40～50万円未満	50万円以上	不明	計
民間アパート・マンション等	人数(人)	678	1,425	1,266	836	227	35	11	11	95	4,584
	率(%)	14.8	31.1	27.6	18.2	5.0	0.8	0.2	0.2	2.1	100.0
大学・学校の留学生用宿舎	人数(人)	218	279	70	23	3	4	0	1	12	610
	率(%)	35.7	45.7	11.5	3.8	0.5	0.7	0.0	0.2	2.0	100.0
大学・学校の一般学生寮	人数(人)	121	159	50	16	2	1	0	0	11	360
	率(%)	33.6	44.2	13.9	4.4	0.6	0.3	0.0	0.0	3.1	100.0
県・市・財団法人の留学生宿舎	人数(人)	30	53	21	9	1	0	0	0	1	115
	率(%)	26.1	46.1	18.3	7.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	100.0
公営住宅等の一般公的宿舎	人数(人)	30	58	43	16	2	1	0	0	4	154
	率(%)	19.5	37.7	27.9	10.4	1.3	0.6	0.0	0.0	2.6	100.0
企業の社員寮	人数(人)	30	18	3	1	2	0	0	0	0	54
	率(%)	55.6	33.3	5.6	1.9	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
ホームステイ	人数(人)	25	8	7	1	2	0	0	0	3	46
	率(%)	54.3	17.4	15.2	2.2	4.3	0.0	0.0	0.0	6.5	100.0
その他	人数(人)	60	34	22	3	6	0	0	0	4	129
	率(%)	46.5	26.4	17.1	2.3	4.7	0.0	0.0	0.0	3.1	100.0
不明	人数(人)	9	6	4	1	0	0	0	0	13	33
	率(%)	27.3	18.2	12.1	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.4	100.0
合計	人数(人)	1,201	2,040	1,486	906	245	41	11	12	143	6,085
	率(%)	19.7	33.5	24.4	14.9	4.0	0.7	0.2	0.2	2.4	100.0
	平成23年(%)	25.2	29.9	22.7	14.1	4.0	1.0	0.2	0.1	2.9	100.0
	平成21年(%)	23.2	23.6	21.3	19.0	7.4	2.1	0.6	0.2	2.7	100.0

宿舎に入居の際の保証人の要否（第 10-14 表）について、「保証人を求められた」と回答した者は、3,606 人で全体の約 6 割（59.3%）となっている。

第 10-14 表 宿舎に入居の際の保証人の要否

(Q34 参照)

区分	求められた	求められていない	不明	計
人数(人)	3,606	2,389	90	6,085
率(%)	59.3	39.3	1.5	100.0
平成23年率(%)	56.0	43.0	0.9	100.0
平成21年率(%)	63.7	35.1	1.2	100.0

宿舎の形態別の保証人の要否（第 10-15 表）を見ると、「民間のアパート・マンション等」に居住する学生のうち、約 6 割が「保証人を求められた」（3,011 人、65.7%）と回答している。一方、「大学・学校の留学生用宿舎」、「大学・学校の一般学生寮」、「ホームステイ」に住む学生では、「保証人を求められた」と回答したのはそれぞれ 4 割以下である。

第 10-15 表 宿舎の形態別の保証人の要否

(Q30(1)・34 参照)

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計
保証人必要	人数 (人)	3,011	208	133	57	100	29	11	44	13	3,606
	率 (%)	65.7	34.1	36.9	49.6	64.9	53.7	23.9	34.1	39.4	59.3
	平成 23 年率 (%)	63.1	31.3	30.9	42.6	63.2	40.6	30.4	23.6	47.5	56.0
	平成 21 年率 (%)	71.7	27.6	32.0	44.6	65.1	60.8	35.9	34.5	42.0	63.7
保証人不要	人数 (人)	1,513	397	222	56	50	24	35	83	9	2,389
	率 (%)	33.0	65.1	61.7	48.7	32.5	44.4	76.1	64.3	27.3	39.3
	平成 23 年率 (%)	36.4	67.6	67.0	56.4	35.6	58.0	68.1	72.9	39.0	43.0
	平成 21 年率 (%)	27.5	70.6	66.0	54.7	34.3	39.2	62.5	59.5	36.0	35.1
不明	人数 (人)	60	5	5	2	4	1	0	2	11	90
	率 (%)	1.3	0.8	1.4	1.7	2.6	1.9	0.0	1.6	33.3	1.5
	平成 23 年率 (%)	0.5	1.0	2.0	1.0	1.2	1.4	1.4	3.6	13.6	0.9
	平成 21 年率 (%)	0.8	1.7	1.9	0.7	0.6	0.0	1.6	6.0	22.0	1.2
計	人数 (人)	4,584	610	360	115	154	54	46	129	33	6,085
	率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

宿舎の保証人の種類 (第 10-16 表) は、「大学・学校等 (代表者)」と回答した者が 1,099 人 (30.5%) と最も多く、次いで、「日本人の知人」が 780 人 (21.6%)、「保証人制度を利用する」が 541 人 (15.0%)、「親族」が 525 人 (14.6%) となっている。

第 10-16 表 宿舎の保証人の種類

(Q35 参照)

区分	大学・学校 (代表者)	大学・学校の指導教員	国際交流団体 (代表者)	過去に在籍していた日本語教育機関 (代表者・教員)	日本人の知人	日本人以外の知人	親族	保証人制度を利用する	その他	不明	計
人数 (人)	1,099	238	60	83	780	189	525	541	76	15	3,606
率 (%)	30.5	6.6	1.7	2.3	21.6	5.2	14.6	15.0	2.1	0.4	100.0
平成 23 年率 (%)	28.8	7.4	1.7	2.0	22.6	6.2	13.4	13.4	3.7	0.7	100.0
平成 21 年率 (%)	25.0	8.8	1.7	3.2	27.2	6.3	12.4	12.1	2.5	0.7	100.0

(注) 回答者数は、第 10-14 表の保証人を必要とする件数 (3,606 人)

学校までの所要通学時間 (第 10-17 表) については、全国平均で「30 分以内」が 6 割以上の 3,912 人 (64.3%) と最も多く、以下、「1 時間以内」が 1,555 人 (25.6%)、「1 時間 30 分以内」が 461 人 (7.6%) となっている。東京在住では、「30 分以内」が 1,024 人 (54.5%) で約 5 割である。

第 10-17 表 学校までの所要通学時間

(Q15・29 参照)

区分		30 分以内	1 時間以内	1 時間 30 分以内	2 時間以内	2 時間以上	不明	計
全国平均	人数 (人)	3,912	1,555	461	100	35	22	6,085
	率 (%)	64.3	25.6	7.6	1.6	0.6	0.4	100.0
	平成 23 年率 (%)	63.4	24.8	8.3	2.2	0.5	0.9	100.0
	平成 21 年率 (%)	57.8	28.4	9.7	2.7	0.7	0.6	100.0
東京在住	人数 (人)	1,024	628	172	35	11	9	1,879
	率 (%)	54.5	33.4	9.2	1.9	0.6	0.5	100.0
	平成 23 年率 (%)	52.4	32.1	10.9	3.1	0.6	1.0	100.0
	平成 21 年率 (%)	44.1	38.3	12.2	4.0	1.0	0.3	100.0

11. 授業料等の保証人

大学・学校の授業料等の保証人の要否(第 11-1 表)は、「求められた」と回答した者が 3,653 人(60.0%)、「求められなかった」と回答した者が、2,372 人(39.0%)となっており、約 6 割が保証人を求められている。

第 11-1 表 授業料等の保証人の要否

(Q16 参照)

区分	求められた	求められていない	不明	計
人数(人)	3,653	2,372	60	6,085
率(%)	60.0	39.0	1.0	100.0
平成 23 年率(%)	59.2	40.0	0.8	100.0
平成 21 年率(%)	58.3	40.3	1.3	100.0

在籍学校別の保証人要否(第 11-2 表)を見ると、保証人を必要とするのは、国立大学の 40.9%(440 人)で、他の区分と比較して割合が低くなっている。

第 11-2 表 在籍学校別の保証人要否

(Q11・12・16 参照)

区分		保証人要	保証人不要	不明	計	
大学	国立	人数(人)	440	628	8	1,076
		率(%)	40.9	58.4	0.7	100.0
		平成 23 年率(%)	36.4	63.0	0.6	100.0
		平成 21 年率(%)	40.0	58.4	1.6	100.0
	公立	人数(人)	69	62	5	136
		率(%)	50.7	45.6	3.7	100.0
		平成 23 年率(%)	53.2	45.9	0.9	100.0
		平成 21 年率(%)	62.4	37.6	0.0	100.0
	私立	人数(人)	1,833	969	22	2,824
		率(%)	64.9	34.3	0.8	100.0
		平成 23 年率(%)	65.7	33.7	0.6	100.0
		平成 21 年率(%)	64.7	34.4	0.9	100.0
	大学計	人数(人)	2,342	1,659	35	4,036
		率(%)	58.0	41.1	0.9	100.0
		平成 23 年率(%)	57.5	41.8	0.6	100.0
		平成 21 年率(%)	58.1	40.9	1.1	100.0
短期大学	人数(人)	42	15	2	59	
	率(%)	71.2	25.4	3.4	100.0	
	平成 23 年率(%)	66.7	31.7	1.7	100.0	
	平成 21 年率(%)	56.0	39.0	5.0	100.0	
専修学校(専門課程)	人数(人)	553	405	5	963	
	率(%)	57.4	42.1	0.5	100.0	
	平成 23 年率(%)	57.0	42.4	0.6	100.0	
	平成 21 年率(%)	59.1	39.1	1.8	100.0	
準備教育課程	人数(人)	39	11	0	50	
	率(%)	78.0	22.0	0.0	100.0	
	平成 23 年率(%)	—	—	—	—	
	平成 21 年率(%)	—	—	—	—	
日本語教育機関	人数(人)	677	282	18	977	
	率(%)	69.3	28.9	1.8	100.0	
	平成 23 年率(%)	66.3	32.3	1.3	100.0	
	平成 21 年率(%)	—	—	—	—	
計	人数(人)	3,653	2,372	60	6,085	
	率(%)	60.0	39.0	1.0	100.0	
	平成 23 年率(%)	59.2	40.0	0.8	100.0	
	平成 21 年率(%)	58.3	40.3	1.3	100.0	

また、授業料の保証人の種類（第 11-3 表）としては、「親族」が 2,494 人（68.3%）と最も多く、約 7 割となっている。次いで、「日本人の知人」が 358 人（9.8%）となっている。

第 11-3 表 授業料の保証人の種類

（Q17 参照）

区分	大学・学校 (代表者)	大学・学校 の指導教員	国際交流 団体 (代表者)	過去に在籍 していた 日本語教育機関 (代表者・教員)	日本人の 知人	日本人以外 の知人	親族	その他	不明	計
人数 (人)	191	195	30	111	358	158	2,494	70	46	3,653
率 (%)	5.2	5.3	0.8	3.0	9.8	4.3	68.3	1.9	1.3	100.0
平成 23 年率 (%)	4.1	4.8	0.9	3.0	11.1	3.8	68.9	1.6	1.8	100.0
平成 21 年率 (%)	4.9	7.0	1.1	4.7	16.2	4.8	59.1	1.3	0.8	100.0

（注）回答者数は、第 11-1 表の保証人を必要とする件数（3,653 人）

12. 健康

大学・学校に入学してからの病気経験の有無とその時の対処の仕方（第 12-1 表）として、「病院に行った」が 2,826 人（46.4%）と最も多く、次いで、「薬局で薬を買って治した」が 2,380 人（39.1%）、「学校の保健管理センターや医務室に行った」が 963 人（15.8%）となっている。なお、「病気やけがをしたことがない」が 2,218 人（36.5%）となっている。

第 12-1 表 大学・学校に入学してからの病気経験の有無とその時の対処の仕方（複数回答設問）（Q36 参照）

区分	病気やけがをしたことがない	学校の保健管理センターや医務室に行った	病院に行った	薬局で薬を買って治した	病院にも薬局にも行かないで、我慢した	その他	不明
人数（人）	2,218	963	2,826	2,380	551	75	105
率（%）	36.5	15.8	46.4	39.1	9.1	1.2	1.7
平成 23 年率（%）	33.9	16.1	46.9	41.7	10.9	1.9	2.2
平成 21 年率（%）	30.4	17.4	50.8	42.3	11.4	0.9	3.5

健康保険加入状況（第 12-2 表）については、5,918 人（97.3%）が何らかの健康保険に加入していると回答している。

第 12-2 表 健康保険加入状況（Q37(1) 参照）

区分		健康保険に加入している	健康保険に加入していない	不明	計
高等教育機関	人数（人）	4,975	119	14	5,108
	率（%）	97.4	2.3	0.3	100.0
日本語教育機関	人数（人）	943	31	3	977
	率（%）	96.5	3.2	0.3	100.0
合計	人数（人）	5,918	150	17	6,085
	率（%）	97.3	2.5	0.3	100.0
	平成 23 年率（%）	97.1	2.8	0.1	100.0
	平成 21 年率（%）	94.5	5.1	0.3	100.0

加入している健康保険の種類（第 12-4 表）については、健康保険に加入している学生の 96.6%にあたる 5,715 人が「（日本の）国民健康保険」に加入しており、その他に、「海外旅行・留学保険」に 288 人（4.9%）、「所属する機関の健康保険」に 261 人（4.4%）、「親や兄弟、配偶者などの家族が加入している健康保険」に 182 人（3.1%）が加入している。

第 12-3 表 居住地域別健康保険加入状況（Q29・37(1)参照）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
人数（人）	102	129	2,880	718	1,027	281	82	699	5,918
率（%）	1.7	2.2	48.7	12.1	17.4	4.7	1.4	11.8	100.0

（注）回答者数は、第 12-2 表で健康保険に加入していると回答した人数（5,918 人）

第 12-4 表 加入している健康保険の種類（複数回答設問）（Q37(2)参照）

区分	（日本の）国民健康保険	海外旅行・留学保険	親や兄弟、配偶者等の家族が加入している健康保険	所属する機関の健康保険	その他	不明
人数（人）	5,715	288	182	261	34	199
率（%）	96.6	4.9	3.1	4.4	0.6	3.4
平成 23 年率（%）	94.9	7.7	3.9	4.1	0.8	0.8
平成 21 年率（%）	95.2	5.4	3.8	2.5	0.5	0.8

（注）率は、第 12-2 表の健康保険加入者数（5,918 人）を 100 とした割合

第 12-5 表 居住地域別加入している健康保険の種類

(Q29・37(2)参照)

区分		北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
国民健康保険	人数(人)	101	122	2,776	689	1,007	276	79	665	5,715
	率(%)	1.8	2.1	48.6	12.1	17.6	4.8	1.4	11.6	100.0
海外旅行・留学保険	人数(人)	7	8	141	29	57	9	3	34	288
	率(%)	2.4	2.8	49.0	10.1	19.8	3.1	1.0	11.8	100.0
親や、兄弟、配偶者等の家族が加入している健康保険	人数(人)	2	7	93	19	24	4	2	31	182
	率(%)	1.1	3.8	51.1	10.4	13.2	2.2	1.1	17.0	100.0
所属する機関の健康保険	人数(人)	3	4	127	38	34	10	7	38	261
	率(%)	1.1	1.5	48.7	14.6	13.0	3.8	2.7	14.6	100.0
その他	人数(人)	1	1	14	5	8	0	0	5	34
	率(%)	2.9	2.9	41.2	14.7	23.5	0.0	0.0	14.7	100.0
不明	人数(人)	0	1	14	5	3	1	0	8	32
	率(%)	0.0	3.1	43.8	15.6	9.4	3.1	0.0	25.0	100.0

居住地域別国民健康保険の加入率(第 12-6 表)は、全国的に約 9 割が加入している。

第 12-6 表 居住地域別国民健康保険の加入率

(Q29・37(2)参照)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数(人)	101	122	2,776	689	1,007	276	79	665	5,715
率(%)	99.0	94.6	96.4	96.0	98.1	98.2	96.3	95.1	96.6

(注) 回答者数は、第 12-3 表の国民健康保険加入者数(5,715人)

年度別の居住地域別国民健康保険の加入率(第 12-7 表)を見ると、東北地方・九州地方を除いて全国的に上昇している。

第 12-7 表 年度別の居住地域別国民健康保険の加入率(年度別比較表)

(Q29・37(2)参照)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
平成 25 年(%)	99.0	94.6	96.4	96.0	98.1	98.2	96.3	95.1	96.6
平成 23 年(%)	94.2	95.8	94.4	95.8	95.6	95.1	95.2	96.8	94.9
平成 21 年(%)	91.4	88.3	89.8	90.9	90.2	92.8	95.6	89.8	90.0

国民健康保険の地域別保険料月額(第 12-8 表)について、全体では、「1,000 円以上 1,500 円未満」が 1,810 人(31.7%)と最も多い。居住地域別にみると、近畿地方では「2,000 円以上 2,500 円未満」北海道・中国地方・四国地方・九州地方では「1,500 円以上 2,000 円未満」、その他の地域では「1,000 円以上 1,500 円未満」がそれぞれ最も多い。(東北地方は、「2,000 円以上 2,500 円未満」、「1,500 円以上 2,000 円未満」が同数で多い。)

第 12-8 表 国民健康保険の地域別保険料月額

(Q29・37(3)参照)

区分	無料	500円未満	500円～1,000円未満	1,000円～1,500円未満	1,500円～2,000円未満	2,000円～2,500円未満	2,500円～3,000円未満	3,000円～3,500円未満	3,500円以上	不明	計	
北海道	人数(人)	7	2	4	17	43	16	6	2	3	1	101
	率(%)	6.9	2.0	4.0	16.8	42.6	15.8	5.9	2.0	3.0	1.0	100.0
東北	人数(人)	7	2	6	27	29	29	6	4	9	3	122
	率(%)	5.7	1.6	4.9	22.1	23.8	23.8	4.9	3.3	7.4	2.5	100.0
関東	人数(人)	38	41	364	1,244	320	153	108	105	363	40	2,776
	率(%)	1.4	1.5	13.1	44.8	11.5	5.5	3.9	3.8	13.1	1.4	100.0
中部	人数(人)	5	6	30	198	168	94	35	28	120	5	689
	率(%)	0.7	0.9	4.4	28.7	24.4	13.6	5.1	4.1	17.4	0.7	100.0
近畿	人数(人)	6	12	27	129	292	329	79	31	94	8	1,007
	率(%)	0.6	1.2	2.7	12.8	29.0	32.7	7.8	3.1	9.3	0.8	100.0
中国	人数(人)	7	4	15	60	96	39	19	3	29	4	276
	率(%)	2.5	1.4	5.4	21.7	34.8	14.1	6.9	1.1	10.5	1.4	100.0
四国	人数(人)	1	1	10	21	23	6	7	1	9	0	79
	率(%)	1.3	1.3	12.7	26.6	29.1	7.6	8.9	1.3	11.4	0.0	100.0
九州	人数(人)	8	18	32	114	308	71	31	19	50	14	665
	率(%)	1.2	2.7	4.8	17.1	46.3	10.7	4.7	2.9	7.5	2.1	100.0
計	人数(人)	79	86	488	1,810	1,279	737	291	193	677	75	5,715
	率(%)	1.4	1.5	8.5	31.7	22.4	12.9	5.1	3.4	11.8	1.3	100.0

(注) 回答者数は、第 12-4 表の国民健康保険加入者数 (5,715 人)

また、国民健康保険料負担分布の年度別比較(第 12-9 表)を見ると、国民健康保険料が「1,000 円～1,500 円未満」「3,500 円以上」の割合がやや上昇している。

第 12-9 表 国民健康保険料負担分布の年度別比較表

(Q37(2)・(3)参照)

区分	無料	500円未満	500円～1,000円未満	1,000円～1,500円未満	無料～1,500円未満	1,500円～2,000円未満	2,000円～2,500円未満	2,500円～3,000円未満	3,000円～3,500円未満	3,500円以上	不明	計	
平成 25 年	人数(人)	79	86	488	1,810	2,463	1,279	737	291	193	677	75	5,715
	率(%)	1.4	1.5	8.5	31.7	43.1	22.4	12.9	5.1	3.4	11.8	1.3	100.0
平成 23 年	人数(人)	78	90	542	1,737	2,447	1,339	769	361	192	484	113	5,705
	率(%)	1.4	1.6	9.5	30.4	42.9	23.5	13.5	6.3	3.4	8.5	2.0	100.0
平成 21 年	人数(人)	76	63	371	1,715	2,225	1,340	652	334	234	527	—	5,406
	率(%)	1.4	1.2	6.9	31.7	41.2	24.8	12.1	6.2	4.3	9.7	—	100.0

(注) 回答者数は、第 12-4 表の国民健康保険加入者数 (5,715 人)

健康保険未加入の理由(第 12-10 表)を見ると、「保険料が高すぎる」が 58 人 (38.7%) であり、「保険が必要だと思わない」も 54 人 (36.0%) と、ほぼ同率になっている。

第 12-10 表 健康保険未加入の理由

(Q38 参照)

区分	保険料が高すぎる	保険が必要だと思わない	国民健康保険への加入の仕方がわからない	その他	不明	計
人数(人)	58	54	14	15	9	150
率(%)	38.7	36.0	9.3	10.0	6.0	100.0
平成 23 年率(%)	39.5	37.2	9.3	9.9	4.1	100.0
平成 21 年率(%)	49.2	29.3	10.1	7.2	4.2	100.0

(注) 回答者数は、第 12-2 表の健康保険未加入者数 (150 人)

13.卒業後の進路希望等

卒業後の進路希望（第 13-1 表）として、「日本において就職希望」と回答した者が 3,957 人（65.0%）で最も多く、次いで、「日本において進学希望」が 2,748 人（45.2%）となっている。

第 13-1 表 卒業後の進路希望（全体）（複数回答設問）（Q39 参照）

区分	日本において進学希望	日本において就職希望	日本において起業希望	出身国において進学希望	出身国において就職・起業希望	日本・出身国以外の国において進学希望	日本・出身国以外の国において就職・起業希望	まだ決めていない	不明
人数（人）	2,748	3,957	532	208	1,606	346	245	242	19
率（%）	45.2	65.0	8.7	3.4	26.4	5.7	4.0	4.0	0.3
平成 23 年率（%）	49.6	52.2	—	4.2	27.8	8.5	7.2	5.7	1.4
平成 21 年率（%）	44.6	56.9	—	3.6	28.5	10.3	7.6	7.1	2.0

在籍段階別卒業後の進路希望（第 13-2 表）を見ると、「大学院博士課程・博士後期課程」では「出身国において就職希望」が最も多く、「大学院修士課程・博士前期課程」、「専門職大学院課程」、「大学院レベルの研究生」、「学部正規課程」、「学部レベルの研究生・聴講生」、「短期大学」、「専修学校（専門課程）」では、「日本において就職を希望」が最も多い。「準備教育課程」、「日本語教育機関」では、「日本において進学希望」が最も多い回答となっている。

第 13-2 表 在籍段階別卒業後の進路希望（複数回答設問）（Q12・39 参照）

区分	日本において進学希望	日本において就職希望	日本において起業希望	出身国において進学希望	出身国において就職・起業希望	日本・出身国以外の国において進学希望	日本・出身国以外の国において就職・起業希望	まだ決めていない	不明	
大学院博士課程・博士後期課程	人数（人）	41	244	31	31	249	37	33	51	0
	率（%）	9.4	56.2	7.1	7.1	57.4	8.5	7.6	11.8	0.0
大学院修士課程・博士前期課程	人数（人）	281	551	55	33	300	44	24	26	3
	率（%）	32.7	64.1	6.4	3.8	34.9	5.1	2.8	3.0	0.3
専門職大学院課程	人数（人）	17	57	9	0	27	2	1	2	0
	率（%）	23.9	80.3	12.7	0.0	38.0	2.8	1.4	2.8	0.0
大学院レベルの研究生	人数（人）	31	52	4	4	25	5	2	2	1
	率（%）	44.3	74.3	5.7	5.7	35.7	7.1	2.9	2.9	1.4
学部正規課程	人数（人）	941	1,619	210	65	593	198	100	83	4
	率（%）	40.9	70.4	9.1	2.8	25.8	8.6	4.3	3.6	0.2
学部レベルの研究生・聴講生	人数（人）	27	46	8	5	21	3	6	6	0
	率（%）	38.0	64.8	11.3	7.0	29.6	4.2	8.5	8.5	0.0
短期大学	人数（人）	31	32	7	2	14	1	6	1	0
	率（%）	52.5	54.2	11.9	3.4	23.7	1.7	10.2	1.7	0.0
専修学校（専門課程）	人数（人）	444	703	104	23	171	28	31	29	3
	率（%）	46.1	73.0	10.8	2.4	17.8	2.9	3.2	3.0	0.3
準備教育課程	人数（人）	46	24	2	1	5	1	1	0	0
	率（%）	92.0	48.0	4.0	2.0	10.0	2.0	2.0	0.0	0.0
日本語教育機関	人数（人）	793	464	71	30	139	19	27	31	6
	率（%）	81.3	47.5	7.3	3.1	14.2	1.9	2.8	3.2	0.6
その他	人数（人）	96	165	31	14	62	8	14	11	2
	率（%）	41.4	71.1	13.4	6.0	26.7	3.4	6.0	4.7	0.9
合計	人数（人）	2,748	3,957	532	208	1,606	346	245	242	19
	率（%）	45.2	65.0	8.7	3.4	26.4	5.7	4.0	4.0	0.3

（注）率は、第 1-4 表の在籍段階別の回答者数（6,085 人）を 100 とした割合

専攻分野別卒業後の進路希望（第13-3表）を見ると、「日本語」では、「日本において進学希望」が最も多く、「医・歯学」では、「出身国において就職・起業希望」が最も多い。他の分野では、「日本において就職希望」が最も多い。

第13-3表 専攻分野別卒業後の進路希望（複数回答設問）（Q13・39参照）

区分		日本において進学希望	日本において就職希望	日本において起業希望	出身国において進学希望	出身国において就職・起業希望	日本・出身国以外の国において進学希望	日本・出身国以外の国において就職・起業希望	まだ決めていない	不明
		人文科学	人数(人)	199	361	36	18	173	31	23
	率(%)	35.5	64.5	6.4	3.2	30.9	5.5	4.1	5.0	0.2
社会科学	人数(人)	654	1,280	194	39	519	126	71	67	4
	率(%)	36.0	70.5	10.7	2.1	28.6	6.9	3.9	3.7	0.2
理学	人数(人)	75	95	11	12	45	20	9	11	0
	率(%)	47.5	60.1	7.0	7.6	28.5	12.7	5.7	7.0	0.0
工学	人数(人)	308	546	62	27	240	55	29	30	1
	率(%)	39.3	69.6	7.9	3.4	30.6	7.0	3.7	3.8	0.1
農学	人数(人)	30	61	7	8	45	10	9	6	1
	率(%)	26.3	53.5	6.1	7.0	39.5	8.8	7.9	5.3	0.9
医・歯学	人数(人)	18	36	3	10	48	9	5	13	0
	率(%)	22.0	43.9	3.7	12.2	58.5	11.0	6.1	15.9	0.0
薬学	人数(人)	7	10	1	2	9	2	2	1	0
	率(%)	35.0	50.0	5.0	10.0	45.0	10.0	10.0	5.0	0.0
家政	人数(人)	35	87	9	4	35	9	4	4	0
	率(%)	31.0	77.0	8.0	3.5	31.0	8.0	3.5	3.5	0.0
教育	人数(人)	56	92	11	5	45	8	4	5	0
	率(%)	42.4	69.7	8.3	3.8	34.1	6.1	3.0	3.8	0.0
日本語	人数(人)	1,076	754	104	48	232	31	43	39	6
	率(%)	75.2	52.7	7.3	3.4	16.2	2.2	3.0	2.7	0.4
その他	人数(人)	290	635	94	35	215	45	46	38	6
	率(%)	33.1	72.6	10.7	4.0	24.6	5.1	5.3	4.3	0.7
計	人数(人)	2,748	3,957	532	208	1,606	346	245	242	19
	率(%)	45.2	65.0	8.7	3.4	26.4	5.7	4.0	4.0	0.3

（注）率は、第1-5表の専攻分野別の回答者数（6,085人）を100とした割合

「日本において就職希望」回答者の就職希望職種（第13-4表）としては、「海外業務」が1,523人（38.5%）で最も多く、次いで「貿易業務」が1,296人（32.8%）、「翻訳・通訳」1,114人（28.2%）となっている。

第13-4表 「日本において就職希望」回答者の就職希望職種（複数回答設問）（Q41(1)参照）

区分	翻訳通訳	海外業務	貿易業務	調査研究	教育	販売営業	経営管理業務	技術開発	情報処理	設計	その他	不明
人数(人)	1,114	1,523	1,296	340	451	803	947	601	354	430	309	124
率(%)	28.2	38.5	32.8	8.6	11.4	20.3	23.9	15.2	8.9	10.9	7.8	3.1
平成23年率(%)	34.6	46.8	27.2	10.6	17.9	28.0	20.3	19.2	6.1	7.6	5.8	1.1
平成21年率(%)	34.8	43.4	41.7	6.9	14.9	17.3	27.0	17.4	10.8	6.3	6.9	1.2

（注）回答者数は、第13-1表の「日本において就職希望」の数（3,957人）

在籍段階別日本での就職希望職種（第13-6表）を見ると、「大学院博士課程・博士後期課程」は、「調査研究」が最も多く、次いで「教育」、「技術開発」と専門知識を活かせると思われる分野をあげている。「大学院修士課程・博士前期課程」、「専門職大学院課程」、「大学院レベルの研究生」、「学部正規課程」では、「海外業務」が最も多く、「学部レベルの研究生・聴講生」では、「貿易業務」が最も多く、他の在籍段階では、「翻訳・通訳」が最も多い回答となっている。

第13-5表 在籍段階別の「日本において就職希望」回答者 (Q12・27参照)

区分	大学院博士課程 博士後期課程	大学院修士課程 博士前期課程	専門職大 学院課程	大学院 レベルの 研究生	学部正規 課程	学部 レベルの 研究生 聴講生	短期大学	専修学校 (専門課程)	準備教育 課程	日本語 教育機関	その他	計
人数(人)	244	551	57	52	1,619	46	32	703	24	464	165	3,957
率(%)	6.2	13.9	1.4	1.3	40.9	1.2	0.8	17.8	0.6	11.7	4.2	100.0

第13-6表 在籍段階別日本での就職希望職種 (複数回答設問) (Q12・41(1)参照)

区分	翻訳 通訳	海外 業務	貿易 業務	調査 研究	教育	販売 営業	経営 管理業務	技術 開発	情報 処理	設計	その他	不明	
大学院博士課程 ・博士後期課程	人数(人)	41	49	22	132	92	10	15	77	16	13	12	6
	率(%)	16.8	20.1	9.0	54.1	37.7	4.1	6.1	31.6	6.6	5.3	4.9	2.5
大学院修士課程 ・博士前期課程	人数(人)	148	267	190	81	72	93	121	118	57	55	31	12
	率(%)	26.9	48.5	34.5	14.7	13.1	16.9	22.0	21.4	10.3	10.0	5.6	2.2
専門職大学院 課程	人数(人)	17	24	21	2	2	6	12	13	5	6	2	2
	率(%)	29.8	42.1	36.8	3.5	3.5	10.5	21.1	22.8	8.8	10.5	3.5	3.5
大学院レベルの 研究生	人数(人)	15	23	15	3	9	6	10	9	5	5	2	1
	率(%)	28.8	44.2	28.8	5.8	17.3	11.5	19.2	17.3	9.6	9.6	3.8	1.9
学部正規課程	人数(人)	479	777	638	79	138	367	432	197	124	139	112	50
	率(%)	29.6	48.0	39.4	4.9	8.5	22.7	26.7	12.2	7.7	8.6	6.9	3.1
学部レベルの 研究生・聴講生	人数(人)	15	11	20	2	8	10	11	7	0	1	4	2
	率(%)	32.6	23.9	43.5	4.3	17.4	21.7	23.9	15.2	0.0	2.2	8.7	4.3
短期大学	人数(人)	14	8	6	0	3	9	9	4	2	4	3	1
	率(%)	43.8	25.0	18.8	0.0	9.4	28.1	28.1	12.5	6.3	12.5	9.4	3.1
専修学校 (専門課程)	人数(人)	194	165	188	12	38	179	169	98	92	132	75	15
	率(%)	27.6	23.5	26.7	1.7	5.4	25.5	24.0	13.9	13.1	18.8	10.7	2.1
準備教育課程	人数(人)	9	5	2	0	6	2	5	1	0	6	2	3
	率(%)	37.5	20.8	8.3	0.0	25.0	8.3	20.8	4.2	0.0	25.0	8.3	12.5
日本語教育機関	人数(人)	133	125	124	23	60	76	118	65	47	57	54	26
	率(%)	28.7	26.9	26.7	5.0	12.9	16.4	25.4	14.0	10.1	12.3	11.6	5.6
その他	人数(人)	49	69	70	6	23	45	45	12	6	12	12	6
	率(%)	29.7	41.8	42.4	3.6	13.9	27.3	27.3	7.3	3.6	7.3	7.3	3.6
計	人数(人)	1,114	1,523	1,296	340	451	803	947	601	354	430	309	124
	率(%)	28.2	38.5	32.8	8.6	11.4	20.3	23.9	15.2	8.9	10.9	7.8	3.1

(注) 回答者数は、第13-1表の「日本において就職希望」の数(3,957人)

専攻分野別就職希望職種（第 13-8 表）を見ると、「理学」、「工学」、「薬学」では「技術開発」が最も多い。「医・歯学」では「調査研究」、「社会科学」は「貿易業務」、「日本語」は「翻訳・通訳」、残りの専攻分野では、「海外業務」が最も多い。

第 13-7 表 専攻分野別の「日本において就職希望」回答者数 (Q13・39 参照)

区分	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	日本語	その他	合計
人数 (人)	361	1,280	95	546	61	36	10	87	92	754	635	3,957
率 (%)	9.1	32.3	2.4	13.8	1.5	0.9	0.3	2.2	2.3	19.1	16.0	100.0

第 13-8 表 専攻分野別就職希望職種 (複数回答設問) (Q13・41(1)参照)

区分		翻訳通訳	海外業務	貿易業務	調査研究	教育	販売営業	経営管理業務	技術開発	情報処理	設計	その他	不明
人文科学	人数 (人)	182	185	137	32	98	86	38	7	19	12	21	6
	率 (%)	50.4	51.2	38.0	8.9	27.1	23.8	10.5	1.9	5.3	3.3	5.8	1.7
社会科学	人数 (人)	362	637	642	75	96	359	475	25	74	33	66	39
	率 (%)	28.3	49.8	50.2	5.9	7.5	28.0	37.1	2.0	5.8	2.6	5.2	3.0
理学	人数 (人)	10	25	11	34	12	16	10	41	9	8	0	3
	率 (%)	10.5	26.3	11.6	35.8	12.6	16.8	10.5	43.2	9.5	8.4	0.0	3.2
工学	人数 (人)	67	138	61	82	33	35	68	328	108	126	27	13
	率 (%)	12.3	25.3	11.2	15.0	6.0	6.4	12.5	60.1	19.8	23.1	4.9	2.4
農学	人数 (人)	13	26	14	21	10	7	11	16	1	3	6	3
	率 (%)	21.3	42.6	23.0	34.4	16.4	11.5	18.0	26.2	1.6	4.9	9.8	4.9
医・歯学	人数 (人)	5	7	0	19	6	0	2	8	1	0	10	3
	率 (%)	13.9	19.4	0.0	52.8	16.7	0.0	5.6	22.2	2.8	0.0	27.8	8.3
薬学	人数 (人)	0	5	2	3	2	1	0	7	1	1	2	0
	率 (%)	0.0	50.0	20.0	30.0	20.0	10.0	0.0	70.0	10.0	10.0	20.0	0.0
家政	人数 (人)	22	35	19	9	6	18	10	13	4	33	6	1
	率 (%)	25.3	40.2	21.8	10.3	6.9	20.7	11.5	14.9	4.6	37.9	6.9	1.1
教育	人数 (人)	41	46	30	6	34	18	9	4	5	5	5	3
	率 (%)	44.6	50.0	32.6	6.5	37.0	19.6	9.8	4.3	5.4	5.4	5.4	3.3
日本語	人数 (人)	250	220	214	29	103	141	188	91	73	80	72	39
	率 (%)	33.2	29.2	28.4	3.8	13.7	18.7	24.9	12.1	9.7	10.6	9.5	5.2
その他	人数 (人)	162	199	166	30	51	122	136	61	59	129	94	14
	率 (%)	25.5	31.3	26.1	4.7	8.0	19.2	21.4	9.6	9.3	20.3	14.8	2.2
計	人数 (人)	1,114	1,523	1,296	340	451	803	947	601	354	430	309	124
	率 (%)	28.2	38.5	32.8	8.6	11.4	20.3	23.9	15.2	8.9	10.9	7.8	3.1

(注) 回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数 (3,957 人)

在籍段階別日本での就職後の将来（第 13-9 表）としては、「専修学校（専門課程）」「日本語教育機関」においては「日本で永久に働きたい」が最も多く、それ以外の在籍段階においては、全て「日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい」が最も多くなっている。

第 13-9 表 在籍段階別日本での就職後の将来 (Q12・41(2)参照)

区分		日本で永久に働きたい	日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい	日本で働いた後、将来は日本、出身国以外で就職したい	まだ決めていない	不明
大学院博士課程・博士後期課程	人数 (人)	49	85	17	84	9
	率 (%)	20.1	34.8	7.0	34.4	3.7
大学院修士課程・博士前期課程	人数 (人)	129	189	39	176	18
	率 (%)	23.4	34.3	7.1	31.9	3.3
専門職大学院課程	人数 (人)	18	20	4	13	2
	率 (%)	31.6	35.1	7.0	22.8	3.5
大学院レベルの研究生	人数 (人)	13	21	7	9	2
	率 (%)	25.0	40.4	13.5	17.3	3.8
学部正規課程	人数 (人)	350	605	200	404	60
	率 (%)	21.6	37.4	12.4	25.0	3.7
学部レベルの研究生・聴講生	人数 (人)	6	19	7	10	4
	率 (%)	13.0	41.3	15.2	21.7	8.7
短期大学	人数 (人)	8	9	6	7	2
	率 (%)	25.0	28.1	18.8	21.9	6.3
専修学校（専門課程）	人数 (人)	233	224	56	174	16
	率 (%)	33.1	31.9	8.0	24.8	2.3
準備教育課程	人数 (人)	5	2	4	9	4
	率 (%)	20.8	8.3	16.7	37.5	16.7
日本語教育機関	人数 (人)	130	165	36	108	25
	率 (%)	28.0	35.6	7.8	23.3	5.4
その他	人数 (人)	38	67	18	36	6
	率 (%)	23.0	40.6	10.9	21.8	3.6
合計	人数 (人)	979	1,406	394	1,030	148
	率 (%)	24.7	35.5	10.0	26.0	3.7

(注) 回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数 (3,957 人)

就職活動時の要望（第 13-10 表）としては、「在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化」と回答した者が 2,082 人 (52.6%) で一番多くなっている。

第 13-10 表 就職活動時の要望 (複数回答設定) (Q41(3)参照)

区分		在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化	在留資格の変更が弾力的に認められるよう規制緩和	留学生を対象とした就職に関する情報の充実	学校における留学生を対象とした就職説明会の充実	学校の留学生に対する就職相談窓口の充実	企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい	留学生を対象としたインターンシップの充実	その他	不明
高等教育機関	人数 (人)	1,848	1,104	1,810	817	604	1,332	1,014	49	102
	率 (%)	52.9	31.6	51.8	23.4	17.3	38.1	29.0	1.4	2.9
日本語教育機関	人数 (人)	234	159	215	102	101	163	97	7	31
	率 (%)	50.4	34.3	46.3	22.0	21.8	35.1	20.9	1.5	6.7
合計	人数 (人)	2,082	1,263	2,025	919	705	1,495	1,111	56	133
	率 (%)	52.6	31.9	51.2	23.2	17.8	37.8	28.1	1.4	3.4
	平成 23 年率 (%)	41.8	29.8	70.8	29.5	23.2	42.2	27.6	0.8	1.2
	平成 21 年率 (%)	40.3	29.4	71.9	29.6	21.5	46.6	24.4	1.8	1.1

(注) 回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数 (3,957 人)

就職にあたっての不安（第 13-11 表）としては、「自分の日本語が通じるかどうか」が 1,819（46.0%）で一番多く、「職場で良い人間関係を作れるかどうか」が 1,788 人（45.2%）、「希望する仕事につけるかどうか」が 1,272（32.1%）と続く。

第 13-11 表 就職にあたっての不安（複数回答設問）（Q41(4) 参照）

区分		職場で良い人間関係を作れるかどうか	自分の日本語が通じるかどうか	希望する仕事につけるかどうか	日本の商慣習になじめるかどうか	顧客対応が問題なくできるかどうか	ビジネスマナーで失敗しないかどうか	どのような人事評価制度なのか	勤務地がどこになるか	適切に仕事を進められるかどうか
高等教育機関	人数（人）	1,566	1,575	1,136	632	580	504	276	254	438
	率（%）	44.8	45.1	32.5	18.1	16.6	14.4	7.9	7.3	12.5
日本語教育機関	人数（人）	222	244	136	58	48	50	20	20	51
	率（%）	47.8	52.6	29.3	12.5	10.3	10.8	4.3	4.3	11.0
合計	人数（人）	1,788	1,819	1,272	690	628	554	296	274	489
	率（%）	45.2	46.0	32.1	17.4	15.9	14.0	7.5	6.9	12.4

区分		労働時間が長くないかどうか	給与・待遇が悪くないかどうか	自分の専門知識が役立つかどうか	キャリアパスがどうなるか	生活習慣の違いになじめるかどうか	不安はない	その他	不明
高等教育機関	人数（人）	307	609	625	157	121	83	34	89
	率（%）	8.8	17.4	17.9	4.5	3.5	2.4	1.0	2.5
日本語教育機関	人数（人）	43	86	87	32	27	10	5	27
	率（%）	9.3	18.5	18.8	6.9	5.8	2.2	1.1	5.8
合計	人数（人）	350	695	712	189	148	93	39	116
	率（%）	8.8	17.6	18.0	4.8	3.7	2.4	1.0	2.9

（注）回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数（3,957 人）

就職期間（第 13-12 表）としては、「10 年以上」が 1,128 人（28.5%）で一番多くなっている。

第 13-12 表 就職期間（Q41(5) 参照）

区分		1 年未満	1 年～3 年未満	3 年～5 年未満	5 年～10 年未満	10 年以上	不明	計
高等教育機関	人数（人）	32	513	983	847	1,006	112	3,493
	率（%）	0.9	14.7	28.1	24.2	28.8	3.2	100.0
日本語教育機関	人数（人）	7	92	110	98	122	35	464
	率（%）	1.5	19.8	23.7	21.1	26.3	7.5	100.0
合計	人数（人）	39	605	1,093	945	1,128	147	3,957
	率（%）	1.0	15.3	27.6	23.9	28.5	3.7	100.0

（注）回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数（3,957 人）

インターンシップ参加の有無（第 13-13 表）としては、「参加したい」が 3,107 人（78.5%）で一番多くなっている。

第 13-13 表 インターンシップ参加の有無

（Q41(6) 参照）

区分		参加したい	既に参加した、 または現在参加 している	不参加	不明	計
高等教育機関	人数（人）	2,741	313	372	67	3,493
	率（%）	78.5	9.0	10.6	1.9	100.0
日本語教育機関	人数（人）	366	11	63	24	464
	率（%）	78.9	2.4	13.6	5.2	100.0
合計	人数（人）	3,107	324	435	91	3,957
	率（%）	78.5	8.2	11.0	2.3	100.0

（注）回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数（3,957 人）

インターンシップ参加有無理由（第 13-14 表）としては、「就職する前に、日本の会社の雰囲気を知っておきたいから」が 1,550 人（45.2%）で一番多く、次いで「就職が有利になりそうだから」が 1,248 人（36.4%）となっている。

第 13-14 表 インターンシップ参加理由

（Q41(7) 参照）

区分		就職が有利になり そうだから	日本語の習得や 自分の学習に役 立ちそうだから	就職する前に、 日本の会社の雰 囲気を知ってお きたいから	不明	計
高等教育機関	人数（人）	1,106	477	1,406	65	3,054
	率（%）	36.2	15.6	46.0	2.1	100.0
日本語教育機関	人数（人）	142	86	144	5	377
	率（%）	37.7	22.8	38.2	1.3	100.0
合計	人数（人）	1,248	563	1,550	70	3,431
	率（%）	36.4	16.4	45.2	2.0	100.0

（注）回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の数（3,957 人）

参考資料

平成25年度 私費外国人留学生生活実態調査

アンケート用紙

へいせい ねんど し ひ がいこくじんりゅうがくせいせいかつじったいちようさ
平成25年度私費外国人留学生生活実態調査

ようし
アンケート用紙

Lifestyle Survey of Privately Financed International Students

Questionnaire

どくりつぎょうせいほうじんにほんがくせいしえんきこう がくしゅうしょうれいひ しきゅう にほんりゅうがくしけん じっし しゅうしょく
独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) は、「学習奨励費」の支給、「日本留学試験」の実施、就職
じょうほう ていきよう にほん こ りゅうがくせい みな しえん だんたい
情報の提供など、日本に来られている留学生の皆さんを支援している団体です。

このアンケートは、皆さん、そしてこれから日本へ来られる留学生のための援助事業に役立つための
ものです。

アンケートには、あなたのお名前や学校名などを書く必要はありません。あなたのプライバシーは
しんがい
侵害されませんので、ご協力をお願いします。

Japan Student Services Organization (JASSO) is an organization which offers enhanced
support programs : providing scholarships to international students, administering “Examination
for Japanese University Admission for International Students” and offering employment
information.

This questionnaire is for using for the assistance of various support programs for international
students in Japan and prospective students.

It is not necessary to fill in your name and your school. We ask your kind cooperation.

かいとうほうほう
回答方法 How to answer

それぞれの質問の、該当する番号・金額をアンケート回答用紙の の中に記入し、回答用紙を在籍す
がっこう りゅうがくせいたんとうしや ていしゆつ ぐたいれい きにゅう
る学校の留学生担当者に提出してください。() には具体例があれば記入してください。

※ この用紙には回答しないでください。

Please answer each question and fill in the applicable number and amount in of answer
paper, and submit it to your school.

If you select “Others” in the question, please fill in a suitable word.

※ Please don't use this paper to answer the question.

－アンケート－

Questionnaire

べっし かいとうようし きにゅう
別紙の回答用紙に記入してください。

Please fill in the attached answer paper.

【あなたのことについてお聞きします。 About yourself】

Q 1. あなたの性別はどちらですか。 Please select your gender.

1. 男 Male 2. 女 Female

Q 2. あなたの出身国・地域はどこですか。(その他の人は、回答用紙に記入してください。)

Please select your home country or region. (If you select “Others”, please fill in the name of your home country or region.)

1. 中国 China 2. 韓国 Korea 3. 台湾 Taiwan 4. ベトナム Vietnam
5. ネパール Nepal 6. マレーシア Malaysia 7. インドネシア Indonesia 8. タイ Thailand
9. アメリカ United States 10. ミャンマー Myanmar 11. モンゴル Mongolia
12. バングラデシュ Bangladesh 13. フランス France 14. スリランカ Sri Lanka
15. ドイツ Germany 16. インド India 17. フィリピン Philippines
18. イギリス Great Britain 19. サウジアラビア Saudi Arabia
20. オーストラリア Australia 21. ロシア Russia 22. カンボジア Cambodia
23. カナダ Canada 24. ブラジル Brazil 25. スウェーデン Sweden
26. ラオス Laos 27. イラン Iran 28. エジプト Egypt
29. シンガポール Singapore 30. ウズベキスタン Uzbekistan 31. その他 Others

Q 3. 留学の目的は何ですか。(3つまで複数回答可)

What is the purpose of your study? (You can give the multiple answers to three.)

1. 学位を取得するため To obtain an academic degree
2. 教養を身につけるため To acquire culture
3. 就職に必要な技能や知識を身につけるため To obtain skills and knowledge for future career development
4. 日本で働く、もしくは日本企業に就職するため To work in Japan or to find a Job in a Japanese company
5. 国際的な経験をつんで国際的な人脈を作るため To make an international network
6. 国際的な考え方を身につけるため To acquire a wide perspective
7. 良い環境で研究を行うため To research in good academic environment
8. 日本語の能力を高めるため To improve yourself in Japanese ability

9. 異文化に接するため To experience a different culture

10. その他 Others

【日本に留学する前のことについてお聞きします。 Before studying in Japan】

Q 4. 日本を留学先として選んだ理由は何でしたか。(3つまで複数回答可)

Why did you decide to study in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 日本社会に興味があり、日本で生活したかったため

Interested in Japanese society and wanted to live in Japan

2. 日本の大学等の教育や研究が魅力的と思ったため

Felt that education and research in Japanese universities were attractive

3. 地理的に近い Geographically close to Japan

4. 興味ある専門分野があったため Offered studies in a particular field of interest

5. 異文化に接したかったため Wanted to experience a different culture

6. 日本語・日本文化を勉強したかったため Wanted to learn Japanese and Japanese culture

7. 日本と関連のある職業に就きたかったため Wanted to do work related to Japan

8. 奨学金を得られたため Received scholarship

9. 友人、知人、家族等に勧められたため Recommended by your friend, acquaintance and family etc.

10. 大学間交流等をきっかけとして Occasion of the having experienced of the university exchange

11. 他の国も考えていたが、学力や費用等の条件が一番合ったため

As compared with other countries, Japan met your most conditions such as academic ability and expense.

12. その他 Others

Q 5. 日本に留学するにあたり、不安に感じていたことは何でしたか。(3つまで複数回答可)

What were your concerns before studying in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 日本の天候や食べ物、習慣に適應できるかどうか

Adaptation to Japanese climate, food and customs

2. 自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるかどうか

Possibility of studying your desired field and achievement of the learning outcomes

3. 周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるかどうか

Communication with other people

4. 適切な宿舎を確保できるかどうか Reservation of accommodation

5. 病気にかかったり自然災害に遭ったりしないかどうか Disease or natural disaster

6. 孤独に感じたりホームシックになったりしないかどうか Loneliness and homesickness

7. 経済的な困難に直面しないかどうか Financial problems

8. 特に不安はなかった None

9. その他 Others

Q 6. 日本に留学するまでに特に苦労したことは何でしたか。(3つまで複数回答可)

What were your problems before arriving at Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 情報の収集 Gathering information
2. 日本語学習 Learning Japanese
3. 留学先学校との事前連絡 Contact with Japanese school
4. 留学ビザ取得 Getting visa
5. 留学資金準備 Preparation of expenses
6. 入学試験 Entrance examination
7. その他 Others

Q 7. 日本に留学する前に、どのような方法で留学情報を入手しましたか。(3つまで複数回答可)

How did you gather information on studying in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 日本留学フェア、教育展等に参加して Japan education fair or seminar
2. 入学を希望する学校に直接問い合わせして Contact with school you wish to enroll in
3. 在外日本大使館等の在外公館に問い合わせして Japanese embassy or consulate general
4. 母国の政府教育機関に問い合わせして Government organization of your home country or region
5. 日本学生支援機構(JASSO)に問い合わせして Contact with JASSO
6. インターネットを利用して学校や日本学生支援機構(JASSO)のHPを検索して Internet
7. その他の民間団体に問い合わせして Private foundation
8. 日本の出版物を購入して Publication
9. 母国の学校や教員に相談して School in your home country or region
10. 親戚や友人に相談して Relative or friend
11. その他 Others

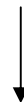
【日本に来てから現在通っている学校に入学するまでのことについてお聞きします。After arriving at Japan】

Q 8. 日本に来てから何年経ちますか。How many years have passed after arriving at Japan?

1. 1年未満 Less than 1 year
2. 1年～2年未満 1～2 years
3. 2年～3年未満 2～3 years
4. 3年～4年未満 3～4 years
5. 4年～5年未満 4～5 years
6. 5年～6年未満 5～6 years
7. 6年以上 More than 6 years

Q 9. 日本に来たあと、今在籍している学校の課程に、すぐ入学しましたか。
Did you enroll in your current school immediately after arriving at Japan?

1. はい (Q 1 1へ進んでください。) Yes (Go to Q11.) 2. いいえ No



Q 10. Q 9で「2. いいえ」と答えた人は、以下の質問に答えてください。
日本に来たあと、今在籍している学校の課程に入学する直前は何をしていましたか。
(一番最近のものを1つ回答)

If you selected “2.No” above, please answer the question.

What were you doing before enrolling in your current school?

1. 日本語教育機関で勉強していた Studying at Japanese language institution
2. 準備教育課程で勉強していた Studying at university preparatory course
3. 留学生別科で勉強していた Studying at preparatory Japanese language course
4. 専修学校(専門課程)で勉強していた Studying at professional training college
5. 高等専門学校で勉強していた Studying at college of technology
6. 短期大学で勉強していた Studying at junior college
7. 大学の学部で勉強していた Studying at undergraduate course
8. 大学院で勉強していた Studying at graduate school
9. 働いていた Working
10. その他 Others

【現在通っている学校等についてお聞きします。 Your current school】

Q 11. 在籍する学校は次のどれですか。 Please select your school type.

1. 国立 National 2. 公立 Local public 3. 私立 Private

Q 12. 在籍する学校ではどの課程で学んでいますか。 Please select your course.

1. 大学院博士課程・博士後期課程 Doctoral course
2. 大学院修士課程・博士前期課程 Master's course
3. 専門職大学院課程 Professional graduate school
4. 大学院レベルの研究生 Research student at graduate level (Non degree)
5. 学部正規課程 Undergraduate degree course
6. 学部レベルの研究生・聴講生 Research student/auditor at undergraduate level (Non degree)
7. 短期大学 Junior college
8. 専修学校(専門課程) Professional training college
9. 準備教育課程 University preparatory course
10. 日本語教育機関 Japanese language institution

11. その他 Others

Q13. 在籍する学校における専攻分野は何ですか。Please select your major.

1. 人文科学 (文学、歴史、哲学等)
Human sciences (Literature, History, Philosophy etc.)
2. 社会科学 (法律、政治、経済、社会学等)
Social sciences (Law, Politics, Economics, Sociology etc.)
3. 理学 (数学、物理、化学、生物学等)
Natural sciences (Mathematics, Physics, Chemistry, Biology etc.)
4. 工学 (機械工学、電子工学、応用化学等)
Engineering (Mechanical engineering, Electrical engineering, Applied chemistry etc.)
5. 農学 (農業経済、農芸、獣医畜産、水産学等)
Agriculture (Agricultural economics, Agricultural science, Animal and Veterinary science, Fisheries science etc.)
6. 医・歯学 Medicine/dentistry
7. 薬学 Pharmacy
8. 家政 (食物、被服、住居学等)
Home economics (Food science, Clothing science, Housing science etc.)
9. 教育 Education
10. 日本語 Japanese ※日本語教育機関在籍者 Student enrolled in Japanese language institution
11. その他 Others

Q14. 1週間当たりの勉強時間を教えてください。(学校での授業時間を除く。)
How many hours do you study per week? (Except the classes)

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 7時間未満 Less than 7 hours | 2. 7～14時間未満 7～14 hours |
| 3. 14～21時間未満 14～21 hours | 4. 21～28時間未満 21～28 hours |
| 5. 28～35時間未満 28～35 hours | 6. 35～42時間未満 35～42 hours |
| 7. 42～49時間未満 42～49 hours | 8. 49時間以上 More than 49 hours |

Q15. 現在住んでいるところから、在籍する学校までの所要通学時間 (片道) はどのくらいですか。
How long does it take from your house to your school? (One way)

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 30分以内 Less than 30 minutes | 2. 1時間以内 One hour |
| 3. 1時間30分以内 One and a half hours | 4. 2時間以内 2 hours |
| 5. 2時間以上 More than 2 hours | |

Q 16. 在籍する学校の授業料等の保証人を求められましたか。

Were you required a guarantor for the payment of tuition?

1. はい Yes 2. いいえ (Q18へ進んでください。) No (Go to Q18.)



Q 17. Q16で「1. はい」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

在籍する学校の授業料等の保証人は誰ですか。

If you selected "1.Yes" above, please answer the question.

Who is your guarantor for the payment of tuition?

1. 大学・学校 (代表者) School (Representative)
2. 大学・学校の指導教員 Academic advisor
3. 国際交流団体 (代表者) International exchange organization (Representative)
4. 過去に在籍していた日本語教育機関 (代表者・教員)
Former Japanese language institution (Representative/teacher)
5. 日本人の知人 Acquaintance (Japanese)
6. 日本人以外の知人 Acquaintance (Non Japanese)
7. 親族 Relative
8. その他 Others

Q 18. 在籍する学校の良いところ、悪いところはそれぞれ何ですか。

What are good/bad points of your school?

1. 学生のサポート体制 Student support
2. 学修環境 (教室、研究室、実験室等) Learning environment (Classroom, laboratory, etc.)
3. 研究内容 Research/learning contents
4. 福利厚生 Welfare program
5. クラブ活動等の課外活動 Club activities
6. その他 Others

【日本への印象等についてお聞きします。 Your impression of Japan】

Q 19. 日本に留学してから日本人に対する印象は良くなりましたか。

Has your impression of Japanese people been changed after studying in Japan?

1. 留学前は悪かったが、留学後に良くなった It was bad before, but it got better.
2. 留学前から良かったが、留学後にさらに良くなった It was good before and got even better.
3. 留学前は良かったが、留学後に悪くなった It was good before, but it got worse.
4. 留学前から悪かったが、留学後にさらに悪くなった It was bad before and got even worse.
5. 留学前から良かったが、留学後に特に変化は無い It has been good and same as before.

6. 留学前から悪かったが、留学後に特に変化は無い It has been bad and same as before.

Q 2 0. 日本に留学して、良かったですか。

How would you describe your impression of studying in Japan?

1. 良かった Good 2. 悪かった Bad 3. どちらともいえない Neither one



Q 2 1. Q 2 0で「1. 良かった」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

日本に留学して良かったことは何でしたか。(3つまで複数回答可)

If you selected "1.Good" above, please answer the question.

What did you acquire during your study in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 質の高い教育を受けられたこと High quality of education
2. 日本語が習得できたこと Japanese acquisition
3. 日本人の友人ができたこと Japanese friends
4. 国際的な人脈ができたこと International network
5. 国際的な考え方、教養を身につけることができたこと Wide perspective and culture
6. その他 Others

Q 2 2. 日本に留学してから苦労したことは何でしたか。(3つまで複数回答可)

What are your problems in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 物価が高い High prices
2. 日常生活における母国の習慣(生活習慣、宗教上の習慣等)との違い
Difference from the customs (Lifestyle, religious etc.) of your home country or region in daily life
3. 宿舎等を探すこと Finding accommodation
4. 宿舎等におけるルール(ゴミ出し等)を守ること
Following the rule in accommodation (How to put out the garbage bags etc.)
5. 日本語の習得 Japanese acquisition
6. 英語の習得 English acquisition
7. 学校内で日本人学生と交流できないこと Less interchange with Japanese students in school
8. 学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと
Less communication with teachers and staffs in school
9. 学校の授業についていくこと Catching up with the classes of school
10. その他 Others

Q 2 3. Q 2 2で克服できなかったことは何ですか。(3つまで複数回答可)

What are the things which you could not overcome in Q22? (You can give the multiple answers to three.)

1. 物価が高い High prices
2. 日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い
Difference from the customs (Lifestyle, religious etc.) of your home country or region in daily life
3. 宿舎等を探すこと Finding accommodation
4. 宿舎等におけるルール（ゴミ出し等）を守ること
Following the rule in accommodation (How to put out the garbage bags etc.)
5. 日本語の習得 Japanese acquisition
6. 英語の習得 English acquisition
7. 学校内で日本人学生と交流できないこと Less interchange with Japanese students in school
8. 学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと
Less communication with teachers and staffs in school
9. 学校の授業についていくこと Catching up with the classes of school
10. その他 Others

【1ヶ月の収入と支出についてお聞きします。 Your monthly income and expenses】

Q24とQ26は、下の注意を読んで記入してください。

—回答の例—

Q24

(1) 仕送り	約	63,000	円
(2) アルバイト	約	29,000	円
(3) 奨学金	約		
A. 学習奨励費	約	48,000	円
B. 大学・学校	約		円
C. 地方自治体	約		円
D. 民間団体	約		円
E. 海外の団体	約		円
F. その他	約		円
(4) 知人の援助	約		円
(5) 配偶者の収入	約		円
(6) その他	約		円
計	約	140,000	円

Q26

(1) 学習研究費	約		円
A. 授業料	約	44,000	円
B. 授業料以外	約	10,000	円
C. サークル等	約		円
(2) 通学費	約	8,000	円
(3) 食費	約	25,000	円
(4) 住居費	約	36,000	円
(5) 電気ガス水道	約	8,000	円
(6) 保険医療費	約	3,000	円
(7) 趣味娯楽	約	5,000	円
(8) その他	約		円
(9) 残額	約	1,000	円
計	約	140,000	円

※ Q24とQ26の合計額は、必ず同じ金額になるようにしてください。

※ Q26の授業料(1ヶ月分の金額)は、1年間の授業料を12で割る、または半年の授業料を6で割って金額を算出してください。なお、授業料には、入学金などの一時的にかかる経費は含みません。

(例) 1年間の授業料 528,000円 → 月額 44,000円

※ 記入する金額は、原則として1,000円単位で記入してください。

× 8,235円 ○ 8,000円

Please answer Q24 and Q26 after reading the following notices.

— Example —

Q24

(1) Allowance	about	63,000	yen
(2) Part-time job	about	29,000	yen
(3) Scholarship			
A. MEXT	about	48,000	yen
B. On campus	about		yen
C. Local government	about		yen
D. Private foundation	about		yen
E. Overseas organization	about		yen
F. Others	about		yen
(4) Acquaintance	about		yen
(5) Spouse	about		yen
(6) Others			

Q26

(1) Study fee			
A. Tuition	about	44,000	yen
B. Material fee	about	10,000	yen
C. Club activity	about		yen
(2) Commuting	about	8,000	yen
(3) Food	about	25,000	yen
(4) Rent	about	36,000	yen
(5) Utilities cost	about	8,000	yen
(6) Insurance etc.	about	3,000	yen
(7) Hobby etc.	about	5,000	yen
(8) Miscellaneous	about		yen
(9) Balance	about	1,000	yen

Total about 140,000 yen

Total about 140,000 yen

The two totals have to be the same amount!

※ “A. Tuition” of Q26 is monthly tuition (except entrance fee and temporary fee).

When you know only the tuition for one year, please divide it by 12.

Tuition for one year 528,000 yen → **Monthly tuition 44,000 yen**

※ Please fill the amount of money per 1,000 yen. × 8,235 yen ○ 8,000 yen

Q 2 4. 1ヶ月の平均的な収入はどれくらいですか。それぞれの項目について、回答用紙の□の中に金額を記入してください。なお、□には該当する数字だけ記入してください。

How much is your monthly average income?

(1) 親・兄弟、または親戚からの仕送り

Allowance

約 about

円yen / 月month

(2) アルバイト

Part-time job

--

(3) 奨学金 Scholarship

A. 私費外国人留学生学習奨励費 (¥65,000、または¥48,000)

MEXT honors scholarship

--

B. 大学・学校からの奨学金

On-campus scholarship

--

C. 地方自治体 (都道府県市区町村) による奨学金

Local government scholarship

--

D. 民間団体の奨学金

Private foundation scholarship

--

E. 海外の団体による奨学金 (日本以外の団体)

Scholarship of the overseas organization (Other than Japanese organization)

--

F. その他の奨学金

Others

--

(4) 知人の援助

Support from a guarantor or an acquaintance

--

(5) 配偶者の収入

Spouse's income

--

(6) その他

Others

--

合計 Total amount

約 about

--

円yen / 月month

↑ Q 2 6 の支出の合計が必ず確認してください。

Same as the total amount of Q26

Q 2 5. Q 2 4 (3) で学習奨励費を受けていると答えた人は、以下の質問に答えてください。

(受けていない人はQ 2 6へ進んでください。) If you receive MEXT honors scholarship, please answer the following questions. (If not, go to Q26.)

(1) 学習奨励費を受けて良かったことは何ですか。(3つまで複数回答可)

What are the merits of receiving MEXT honors scholarship? (You can give the multiple answers to three.)

1. 日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた
Not having felt uneasiness about the daily life and could concentrate on study
2. 成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思励みになった
Became encouragement of your study
3. 奨学金があるので学校のクラブ活動等に参加できるようになった
Could have taken part in club activities in your school
4. 宿舎を探すのにも奨学金があると有利だった Advantage in finding accommodation
5. その他 Others

(2) 学習奨励費の給付に対して今後望むことは何ですか。(3つまで複数回答可)

What do you wish to MEXT honors scholarship? (You can give the multiple answers to three.)

1. 給付金額の増額 To increase the amount
2. 受給者数の増加 To increase the number of scholars
3. 海外で奨学金予約ができるように予約者数を増やしてほしい
To increase the number of overseas applicants
4. 給付期間を1年間から延ばしてほしい To extend the duration from one year
5. 母国において、学習奨励費の情報が少なかったなので、もっと情報提供してほしい
More information on MEXT honors scholarship
6. 学校内での選考について、もっと情報提供してほしい
More information on selection procedure of applicants in school
7. その他 Others

Q 2 6. 1ヶ月の平均的な支出はどれくらいですか。それぞれの項目について、回答用紙の□の中に金額を記入してください。なお、□には該当する数字だけ記入してください。

How much is your monthly average expenses?

(1) 学習研究費

Study fee

A. 授業料 (1ヶ月分の金額)

Tuition

約 about

円yen/月month

B. 教科書、実習材料、文具等の経費 (授業料以外の経費)

Material fee (Textbook, training material, stationery)

C. サークル活動の会費、合宿費

Club activities

(2) 通学費 (定期代等)

Commuting expenses

(3) 食費

Food

(4) 住居費 (1ヶ月の家賃、寮費など)

Rent

(5) 電気、ガス、水道料金

Utilities cost

(6) 保険、医療費

Insurance and medical

(7) 趣味、娯楽費

Hobby and entertainment

(8) その他の日常的な経費 Miscellaneous

(洋服代、電話料金、交通費、消耗品等) (Clothes, mobile phone etc.)

(9) 残額

Balance

合計 Total amount

約 about

--

円yen/月month

↑ Q 2 4 の収入の合計と同額か必ず確認してください。

↑Same as the total amount of Q24

【アルバイトについてお聞きします。 Part-time job】

Q 27. 現在、アルバイトをしていますか。 Do you work part-time?

1. はい Yes 2. いいえ (Q 29へ進んでください。) No (Go to Q29.)



Q 28. Q 27で「1. はい」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

If you selected "1.Yes" above, please answer the following questions.

(1) どのようなアルバイトをしていますか。(3つまで複数回答可)

What kind of part-time job? (You can give the multiple answers to three.)

1. 家庭教師 Homework teacher
2. 語学教師 Language teacher
3. 塾講師 Private supplementary school lecturer
4. ティーチング アシスタント (TA)・リサーチアシスタント (RA) Teaching assistant (TA)/research assistant (RA)
5. 一般事務 Office work
6. 経理事務 Accounting work
7. 清掃 Cleaning
8. 警備 Guard
9. ビル管理 Building management
10. ガソリンスタンド Gas stand
11. 配達 Delivery
12. 発送作業 Dispatch work
13. 飲食業 Food
14. 営業・販売(コンビニ等) Business/selling(convenience store etc.)
15. ホテル受付・ホール係 Reception/hall
16. 出版物等の印刷作業 Printing work
17. 土木・建設作業 Construction work
18. 引越業 Moving work
19. 工場での組立作業 Assembly work
20. 倉庫整理 Warehouse rearranging
21. 翻訳・通訳 Translation/interpretation
22. プログラマー、オペレーター Computer programmer/operator
23. グラフィック・デザイナー Computer graphic design
24. その他 Others

(2) 1週間何時間アルバイトをしていますか。

How many hours do you work part-time per week?

1. 5時間未満 Less than 5 hours
2. 5時間～10時間未満 5～10 hours
3. 10時間～15時間未満 10～15 hours
4. 15時間～20時間未満 15～20 hours
5. 20時間～25時間未満 20～25 hours
6. 25時間以上 More than 25 hours

(3) なぜアルバイトをするのですか。 Why do you work part-time?

1. 日本での生活を維持するために必要だから To maintain your life in Japan
2. 日本人との交流等良い機会になるから
Good opportunity for communicating with Japanese people
3. 教養・娯楽等にあてる費用を得るため For your hobby and entertainment
4. その他 Others

(4) 主としてやっているアルバイトの時給（1時間あたりの単価）はいくらですか。

How much is the hourly wage?

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 800円未満 Less than 800 yen | 2. 800円～1,000円未満 800～1,000 yen |
| 3. 1,000円～1,200円未満 1,000～1,200 yen | 4. 1,200円～1,400円未満 1,200～1,400 yen |
| 5. 1,400円～1,600円未満 1,400～1,600 yen | 6. 1,600円～1,800円未満 1,600～1,800 yen |
| 7. 1,800円～2,000円未満 1,800～2,000 yen | 8. 2,000円以上 More than 2,000 yen |

【住居についてお聞きします。Accommodation】

Q 29. 現在、どの地域に住んでいますか。Where do you live in?

- | | | | |
|-----------------|-------------------|------------------|------------------|
| 1. 北海道 Hokkaido | 2. 青森 Aomori | 3. 岩手 Iwate | 4. 宮城 Miyagi |
| 5. 秋田 Akita | 6. 山形 Yamagata | 7. 福島 Fukushima | 8. 茨城 Ibaraki |
| 9. 栃木 Tochigi | 10. 群馬 Gunma | 11. 埼玉 Saitama | 12. 千葉 Chiba |
| 13. 東京 Tokyo | 14. 神奈川 Kanagawa | 15. 新潟 Niigata | 16. 富山 Toyama |
| 17. 石川 Ishikawa | 18. 福井 Fukui | 19. 山梨 Yamanashi | 20. 長野 Nagano |
| 21. 岐阜 Gifu | 22. 静岡 Shizuoka | 23. 愛知 Aichi | 24. 三重 Mie |
| 25. 滋賀 Shiga | 26. 京都 Kyoto | 27. 大阪 Osaka | 28. 兵庫 Hyogo |
| 29. 奈良 Nara | 30. 和歌山 Wakayama | 31. 鳥取 Tottori | 32. 島根 Shimane |
| 33. 岡山 Okayama | 34. 広島 Hiroshima | 35. 山口 Yamaguchi | 36. 徳島 Tokushima |
| 37. 香川 Kagawa | 38. 愛媛 Ehime | 39. 高知 Kochi | 40. 福岡 Fukuoka |
| 41. 佐賀 Saga | 42. 長崎 Nagasaki | 43. 熊本 Kumamoto | 44. 大分 Oita |
| 45. 宮崎 Miyazaki | 46. 鹿児島 Kagoshima | 47. 沖縄 Okinawa | |

Q 30. どのような宿舎に住んでいますか。Which type of your current accommodation?

(1) どのような形態の宿舎に住んでいますか。

Which type of accommodation do you live in?

1. 民間アパート・マンション等 Private housing/apartment
2. 大学・学校の留学生用宿舎 International student residence set up by school
3. 大学・学校の一般学生寮 Student hostel set up by school
4. 県・市・財団法人の留学生宿舎 International student housing set up by local government
5. 公営住宅等の一般公的宿舎 Public housing
6. 企業の社員寮 Private company hostel
7. ホームステイ Home stay
8. その他 Others

(2) 宿舎を選ぶ際、重視したものは何ですか。（3つまで複数回答可）

What did you think as important in choosing accommodation? (You can give the multiple answers to three.)

1. 家賃・初期費用 Rent
2. 間取り・広さ Layout/width
3. 設備 Equipment
4. 学校からの距離・通学時間 Distance/commuting time
5. 周辺環境の利便性（駅が近い、買い物しやすい等） Convenience of neighboring environment
6. セキュリティ Security
7. 日本人との交流 Exchange with Japanese people
8. 留学生同士の交流 Exchange between international students

(3) 現在住んでいる部屋のうち、あなた個人が使用している面積はどの位の広さですか。

(キッチン・バス・トイレは除いてください。2人以上で住んでいる場合は、キッチン・バス・トイレを除いた部屋の広さを、住んでいる人の数で割ってください。たたみ1枚の広さは約1.6㎡です。)

About rooms you live in, how large is the area that you use individually?

(Except kitchen, bath/shower and toilet. If you live with two or more persons, please determine your own area. 1 tatami mat = about 1.6 m²)

1. 5㎡未満（たたみ約3枚分） Under 5 m² (3 tatami mats)
2. 5㎡～7.5㎡未満（たたみ約4枚～4.5枚分） 5 m²～7.5 m² (4～4.5 tatami mats)
3. 7.5㎡～10㎡未満（たたみ約5枚～6枚分） 7.5 m²～10 m² (5～6 tatami mats)
4. 10㎡～12.5㎡未満（たたみ約7枚～7.5枚分） 10 m²～12.5 m² (7～7.5 tatami mats)
5. 12.5㎡～15㎡未満（たたみ約8枚～9枚分） 12.5 m²～15 m² (8～9 tatami mats)
6. 15㎡～17.5㎡未満（たたみ約10枚～10.5枚分） 15 m²～17.5 m² (10～10.5 tatami mats)
7. 17.5㎡～20㎡未満（たたみ約11枚～12枚分） 17.5 m²～20 m² (11～12 tatami mats)
8. 20㎡～25㎡未満（たたみ約13枚～15枚分） 20 m²～25 m² (13～15 tatami mats)
9. 25㎡以上（たたみ約16枚分以上） Over 25 m² (Over 16 tatami mats)

(4) 現在住んでいる宿舎にキッチン、バス、シャワー、トイレはありますか。

Are there kitchen, bath/shower and toilet in your accommodation?

A. キッチン Kitchen

1. 部屋にある In your room
2. 部屋にはないが共同 Shared
3. なし Nothing

B. バス・シャワー Bath/shower

1. 部屋にある In your room
2. 部屋にはないが共同 Shared
3. なし Nothing

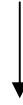
C. トイレ Toilet

1. 部屋にある In your room
2. 部屋にはないが共同 Shared

Q 3 1. ^{ひとり}一人で住んでいますか。 Do you live alone?

1. はい (Q 3 3へ進んでください。) Yes (Go to Q33.)

2. いいえ No



Q 3 2. Q 3 1で「2. いいえ」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

If you selected “2.No” above, please answer the following questions.

(1) ^{どうきよ}同居している人は何人ですか。(あなた以外)

How many people do you live together? (Except you)

1. ^{ひとり}1人 One person

2. ^{ふたり}2人 Two persons

3. ^{にん}3人 Three persons

4. ^{にん}4人 Four persons

5. ^{にんいじょう}5人以上 More than five persons

(2) ^{だれ}誰と同居していますか。

Whom do you live with?

1. ^{はいぐうしゃ}配偶者または^{かぞく}家族 Spouse or family

2. ^{がいこくじんりゅうがくせい}外国人留学生 International students

3. ^{にほんじんがくせい}日本人学生 Japanese students

4. ^たその他 Others

Q 3 3. ^{げんざい}現在の^{しゆくしゃ}宿舎に入居が決まったとき、^{まいつき}毎月の^{やちん}家賃とは別に、^{べつ}いくら^{けいひ}経費(敷金・礼金等)がかかりましたか。

How much did you pay the expenses (deposit) except the monthly rent in making a contract of your current accommodation?

1. なし Nothing

2. ^{まんえんみまん}5万円未満 Less than 50,000 yen

3. ^{まんえん}5万円～^{まんえんみまん}10万円未満 50,000～100,000 yen

4. ^{まんえん}10万円～^{まんえんみまん}20万円未満 100,000～200,000 yen

5. ^{まんえん}20万円～^{まんえんみまん}30万円未満 200,000～300,000yen

6. ^{まんえん}30万円～^{まんえんみまん}40万円未満 300,000～400,000 yen

7. ^{まんえん}40万円～^{まんえんみまん}50万円未満 400,000～500,000yen

8. ^{まんえんいじょう}50万円以上 More than 500,000 yen

Q 3 4. 宿舎の保証人を求められましたか。

Were you required a guarantor of your current accommodation?

1. はい Yes 2. いいえ (Q 3 6へ進んでください。) No (Go to Q36.)



Q 3 5. Q 3 4で「1. はい」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

現在住んでいる宿舎の保証人は誰ですか。

If you selected “1.Yes” above, please answer the question.

Who is your guarantor of your current accommodation?

1. 大学・学校 (代表者) School (Representative) 2. 大学・学校の指導教員 Academic advisor
3. 国際交流団体 (代表者) International exchange organization (Representative)
4. 過去に在籍していた日本語教育機関 (代表者・教員)
Former Japanese language institution (Representative/teacher)
5. 日本人の知人 Acquaintance (Japanese) 6. 日本人以外の知人 Acquaintance (Non-Japanese)
7. 親族 Relative 8. 保証人制度を利用する To use the guarantor system 9. その他 Others

【健康についてお聞きします。 Your health】

Q 3 6. 学校に入学してから病気やけがをしたことがありますか。また、その時どうしましたか。

(3つまで複数回答可)

Have you got disease or injuries since you enrolled in your school?

(You can give the multiple answers to three.)

1. 病気やけがをしたことがない No disease and injuries
2. 学校の保健管理センターや医務室に行った
Visited the health center or medical office in your school
3. 病院に行った Went to the hospital 4. 薬局で薬を買って治した Bought medicine
5. 病院にも薬局にも行かないで、我慢した Endured 6. その他 Others

Q 3 7. 健康保険についてお聞きします。 Health insurance

(1) 健康保険に加入していますか。

Do you join the health insurance?

1. はい Yes 2. いいえ (Q 3 8へ進んでください。) No (Go to Q38.)



(2) 前の質問で「1. はい」と答えた人にお聞きします。

その健康保険の種類は次のどれですか。(3つまで複数回答可)

If you selected “1.Yes” above, please answer the following questions.

Which kind of the health insurance? (You can give the multiple answers to three.)

1. (日本の) 国民健康保険 Japanese national health insurance
2. 海外旅行・留学保険 Overseas travel insurance/study abroad insurance
3. 親や、兄弟、配偶者等の家族が加入している健康保険 Health insurance of your family
4. 所属する機関の健康保険 Health insurance by school
5. その他 Others

(3) 1ヶ月に合計どのくらいの金額を払っていますか。(次はQ39に進んでください。)

How much is the monthly payment of the health insurance? (Next, go to Q39.)

1. 無料 Free
2. 500円未満 Less than 500 yen
3. 500円～1,000円未満 500～1,000 yen
4. 1,000円～1,500円未満 1,000～1,500 yen
5. 1,500円～2,000円未満 1,500～2,000 yen
6. 2,000円～2,500円未満 2,000～2,500 yen
7. 2,500円～3,000円未満 2,500～3,000 yen
8. 3,000円～3,500円未満 3,000～3,500 yen
9. 3,500円以上 More than 3,500 yen

Q38. Q37の(1)で「2. いいえ」と答えた人は、以下の質問に答えてください。
健康保険に加入していない理由は次のどれですか。(加入している人は回答の必要はありません。)

What is the reason why you don't join the health insurance?

(If you selected "2.No" above in Q37-(1), please answer the question.)

1. 保険料が高すぎる Expensive
2. 保険が必要だと思わない Unnecessary
3. 国民健康保険への加入の仕方がわからない
Not knowing the subscription of the Japanese national health insurance
4. その他 Others

【卒業後の予定についてお聞きします。 Your plan after finishing your current school】

Q39. 現在在籍する学校の卒業後の予定はなんですか。(3つまで複数回答可)

What will you do after finishing your current school in Japan?

(You can give the multiple answers to three.)

1. 日本において進学希望 Further study in Japan
2. 日本において就職希望 Employment in Japan
3. 日本において起業希望 Starting a business in Japan
4. 出身国において進学希望 Further study in your home country or region
5. 出身国において就職・起業希望
Employment/starting a business in your home country or region

6. 日本・出身国以外の国において進学希望
Further study except in Japan and in your home country or region
7. 日本・出身国以外の国において就職・起業希望
Employment/starting a business except in Japan and in your home country or region
8. まだ決めていない Not decided yet

Q 4 0. Q 3 9で「1. 日本において進学希望」と答えた人は、以下の質問に答えてください。
どの課程への進学を考えていますか。
If you selected “1. Further study in Japan” in Q39, please answer the question.
Which course/school do you want to enroll in?

1. 大学院博士課程・博士後期課程 Doctoral course
2. 大学院修士課程・博士前期課程 Master’s course
3. 専門職大学院課程 Professional graduate school
4. 大学院レベルの研究生 Research student at graduate level (Non degree)
5. 学部正規課程 Undergraduate degree course
6. 学部レベルの研究生・聴講生 Research student/auditor at undergraduate level (Non degree)
7. 短期大学 Junior college
8. 専修学校（専門課程） Professional training college
9. その他 Others

Q 4 1. Q 3 9で「2. 日本において就職希望」と答えた人は、以下の質問に答えてください。
If you selected “2. Employment in Japan” in Q39, please answer the following questions.

(1) どのような分野に就職を希望していますか。(3つまで複数回答可)

What kind of job do you wish to engage in? (You can give the multiple answers to three.)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 翻訳・通訳 Translation/interpretation | 2. 海外業務 Overseas business |
| 3. 貿易業務 Trade | 4. 調査研究 Research |
| 5. 教育 Education | 6. 販売・営業 Business/selling |
| 7. 経営・管理業務 Management/administration | 8. 技術開発 Technology development |
| 9. 情報処理 Information processing | 10. 設計 Design |
| 11. その他 Others | |

(2) 日本において就職した後の将来はどのように考えていますか。

What is your plan after employment in Japan?

1. 日本で永久に働きたい Want to work in Japan permanently
2. 日本で働いた後、将来は出身国に帰国して就職したい
Go back and find employment in your home country or region
3. 日本で働いた後、将来は日本、出身国以外で就職したい
Find employment except in Japan and in your home country or region
4. まだ決めていない Not decided yet

(3) 日本での就職活動をする際に、どのようなことを望みますか。(3つまで複数回答可)

What do you expect in job hunting in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化
Simplification of the changing status of residence and shortening of a procedure period
2. 在留資格の変更が弾力的に認められるよう規制緩和
Relaxing the regulation to be more flexible for changing status of residence
3. 留学生を対象とした就職に関する情報の充実
More information on job hunting for international students
4. 学校における留学生を対象とした就職説明会の充実
More offering the job hunting seminars for international students in school
5. 学校の留学生に対する就職相談窓口の充実
More substantial of career consultation counter for international students in school
6. 企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい
More offering the job hunting seminars for international students by company
7. 留学生を対象としたインターンシップの充実
More substantial of internship for international students
8. その他 Others

(4) 日本での就職にあたり不安に感じることは何ですか。(3つまで複数回答可)

What are your concerns prior to employment in Japan? (You can give the multiple answers to three.)

1. 職場で良い人間関係をつくれるか Making good relationships at work
2. 自分の日本語が通じるか Japanese language ability
3. 希望する仕事につけるか Getting a desired job
4. 日本の商慣習になじめるか Adaption for business practice
5. 顧客対応が問題なくできるか Customer service
6. ビジネスマナーで失敗しないか Business manner
7. どのような人事評価制度なのか Personnel evaluation system
8. 勤務地がどこになるか Working place
9. 適切に仕事を進められるか Working appropriately
10. 労働時間が長くないか Length of working hours
11. 給与・待遇が悪くないか Salary and labor conditions
12. 自分の専門知識が役立つか Putting technical knowledge to practical use
13. キャリアパスがどうなるのか Career path
14. 生活習慣の違いになじめるか Difference in a lifestyle
15. 不安はない Nothing
16. その他 Others

(5) ^{にほん}日本で^{しゅうしょく}就職した^{あと}後、^{なんねん}何年くらい^{にほん}日本で^{はたら}働きたいですか。

How long do you plan to work after employment in Japan?

1. ^{ねんみまん}1年未満 Less than 1 year
2. ^{ねん}1年～^{ねんみまん}3年未満 1～3 years
3. ^{ねん}3年～^{ねんみまん}5年未満 3～5 years
4. ^{ねん}5年～^{ねんみまん}10年未満 5～10 years
5. ^{ねんいじょう}10年以上 More than 10 years

(6) ^{にほん}日本で^{いんたーんしっぷ}インターンシップに^{さんか}参加したい^{おも}と思いますか。

Do you want to participate in internship in Japan?

1. ^{おも}思う Yes
2. ^{すで}既に^{さんか}参加した、^{げんざいさんか}または現在参加している Already participated, or participating now.
3. ^{おも}思わない No

(7) (6) の質問で「1. ^{おも}思う」、または「2. ^{すで}既に参加した、または現在参加している」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

^{いんたーんしっぷ}インターンシップに^{さんか}参加したい^{おも}と思う理由（^{さんか}参加した理由）は何ですか。

If you selected “1.Yes” or “2. Already participated or participating now” above in (6), please answer the reason.

1. ^{しゅうしょく}就職が^{ゆうり}有利になりそうだから
It seems to become advantageous for your employment.
2. ^{にほんご}日本語の^{しゅうとく}習得や^{じぶん}自分の^{がくしゅう}学習に^{やくだ}役立つそうだから
It seems to be helpful for Japanese acquisition and your learning.
3. ^{しゅうしょく}就職する^{まえ}前に、^{にほん}日本の^{かいしゃ}会社の^{ふんいき}雰囲気を知^しっておきたいから
To experience the atmosphere of Japanese company before your employment.

^{いじょう}以上で^お終わりです。ご^{きょうりやく}協力どうもありがとうございました。皆^{みな}さんのご^{かつやく}活躍をお^{いの}祈りしています。

Thank you for your kind cooperation!

平成25年度 私費外国人留学生生活実態調査

概 要

編集・発行 独立行政法人日本学生支援機構

【問合せ先】

独立行政法人日本学生支援機構 留学生事業部留学情報課 企画調査係

〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1

電 話 03-5520-6111

F A X 03-5520-6121

ホームページ <http://www.jasso.go.jp/>

©2014 年 <本書の一部または全部の無断複写、複製、転記等を禁じます。>

